

PENTAX®

Z-1 QUARTZ DATE

使用説明書



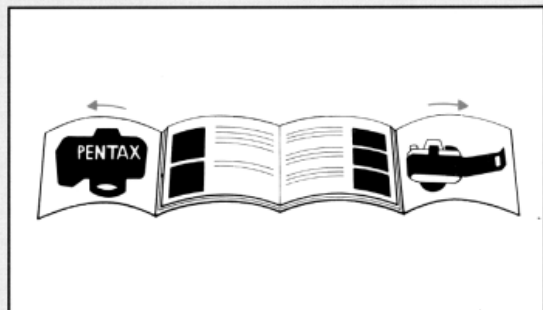
このたびはペンタックスカメラをお買い上げいただき誠にありがとうございます。Z-1は、18種類のペンタックスファンクションやパワーズーム、プログラム自動露出からのワンタッチでのシャッター優先、絞り優先への切り替えとプログラムへの復帰など自由に撮影者の意図を割り込ませることができます。また、パワーズームレンズとの組み合わせによるオート露光間ズームや撮影倍率の指定、焦点距離の設定など高精度なインテリジェントパワーズームを備えたオートフォーカス一眼レフカメラです。

その他、以下のような特徴を備えています。

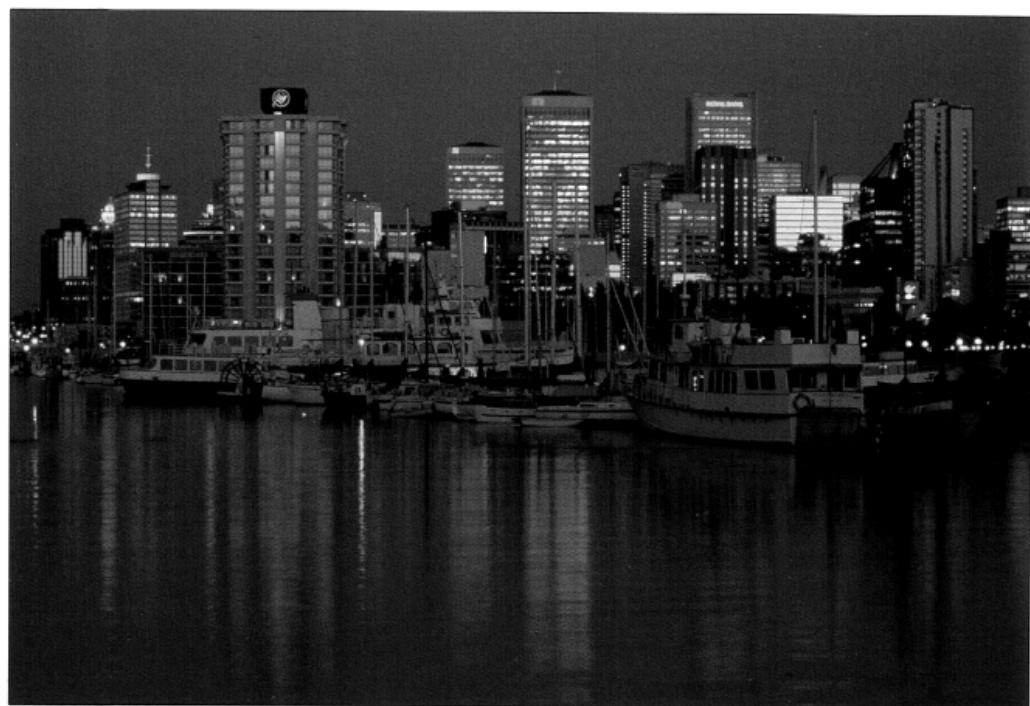
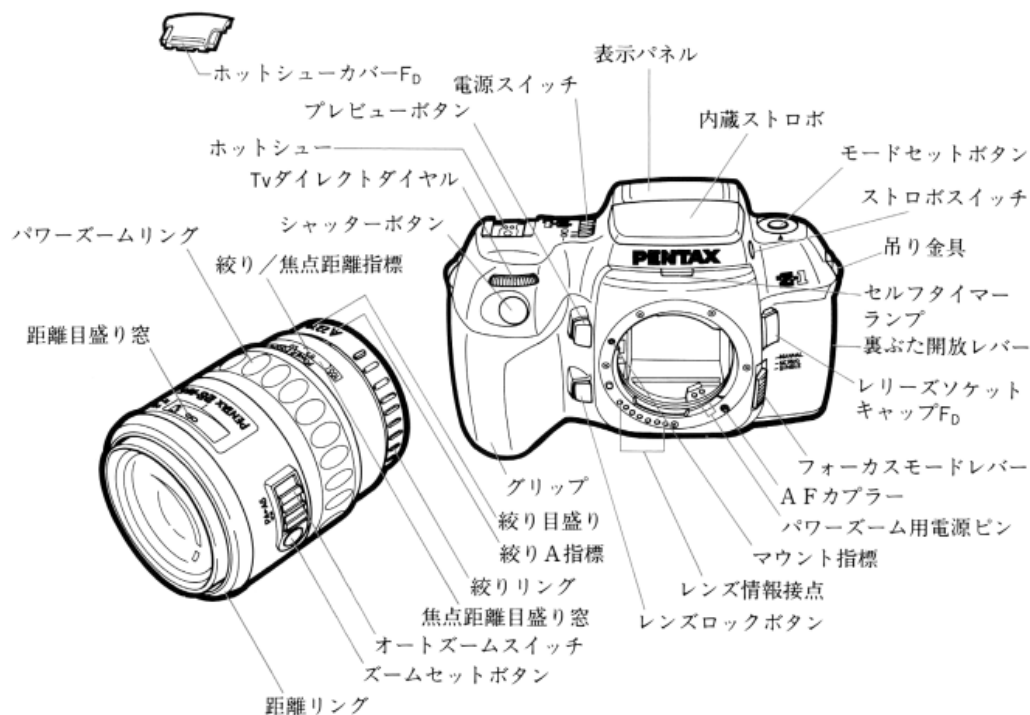
- ・動体予測
- ・8分割測光
- ・インターバル撮影
- ・9回までの多重露出
- ・スポット測光への切り替え可能

ご使用前に使用説明書の関係部分をよくお読みのうえ正しくお使いください。

各部の名称は表紙と裏表紙の内側にありますので、開いて各ページを読みながらご覧いただくこともできます。



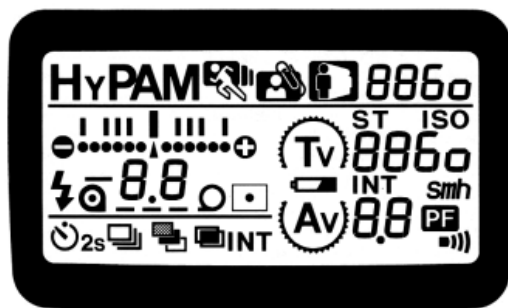
各部の名称①



表示パネルの表示ガイド	2
ファインダー内の表示ガイド	3
使い方は簡単です	4
マウントについて	6
Z-1と各種レンズを組み合わせたときの機能	7
説明書の構成について	8
カメラの準備と基本操作	9~21
ストラップを取り付けます	9
電池を入れます	10
レンズを取り付けます	12
ファインダーの視度を調節します	14
シャッターボタンの操作	15
電源スイッチの操作	15
データバックを使います	16
フィルムを入れます	17
フィルムの巻き戻しについて	20
基本的な使い方(撮影)	22~36
最も簡単な露出モードを使います	22
基本的なドライブモードについて	24
ズームレンズの使い方	26
カメラの構え方	29
オートフォーカスを使います	30
オートフォーカスでピントを合わせます	30
・フォーカスロック撮影について	32
撮影します	34
内蔵ストロボの基本的な使い方	34
・赤目現象について	36
応用的な使い方	37~103
手動によるピント合わせ	37
オートフォーカスの苦手な被写体	40
測光方式の切り替えについて	41
・メモリーロックについて	41
各露出モードを選びます	42
・ハイパープログラム自動露出の使い方	44
・プログラム自動露出の使い方	46
・シャッター優先自動露出の使い方	48

・絞り優先自動露出の使い方	50
・ハイパーマニュアル露出の使い方	53
・マニュアル露出(バルブ)の使い方	56
露出補正について	58
ドライブモードを選びます	59
・オートブラケット撮影の使い方	62
・多重露出撮影の使い方	64
・インターバル撮影の使い方	65
・セルフタイマー撮影の使い方	68
・2秒セルフタイマー撮影の使い方	69
・トリプルセルフタイマー撮影の使い方	70
・ズームの拡張機能	71
・ズームクリップモードの使い方	72
・イメージサイズ指定モードの使い方	74
・露光間ズームモードの使い方	77
内蔵ストロボを使います	80
PFペンタックスファンクション	84
フィルム感度(ISO)のマニュアル設定	94
電子音を消すには	95
外付けストロボの使い方	96
・光量制御シンクロ撮影	99
アクセサリについて	100
・専用アクセサリ	100
・ソフトケース	101
・クォーツデートのデータ修正	102
写真の豆知識	104~107
絞りとシャッター速度の効果	104
被写界深度	106
赤外線指標について	107
その他について	108~121
電池について	109
取り扱い上の注意	110
こんなときは?	112
主な仕様	114
お問い合わせは次の各サービス窓口へ	118
アフターサービスについて	121

表示パネルの表示ガイド

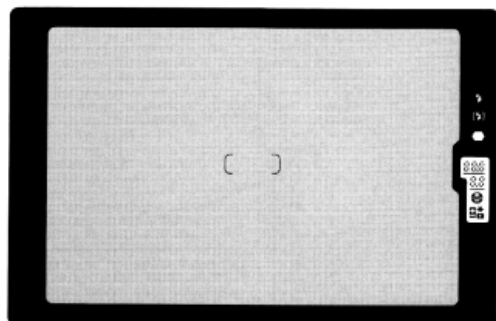


HyP	ハイパープログラム自動露出表示
P	プログラム自動露出表示
A	絞り優先自動露出表示
A	シャッター速度優先自動露出表示
HyM	ハイパーマニュアル露出表示
■	イメージサイズ指定モード表示
■	ズームクリップモード表示
■	露光間ズームモード表示
8000	シャッター速度表示
32	絞り表示
□	測光モード表示

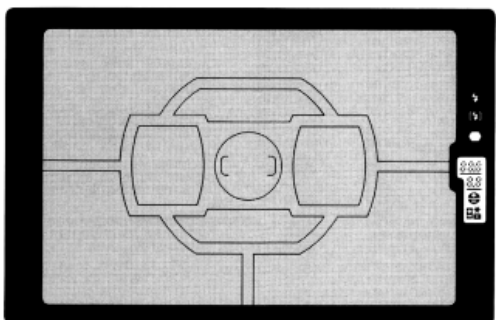
☺	セルフタイマー表示
☺2s	2秒セルフタイマー表示
☺	トリプルセルフタイマー表示
INT	インターバル撮影表示
■	露出補正表示
ISO	フィルム感度表示(ISO)
Tv	Tvダイレクトダイヤル表示
Av	Avダイレクトダイヤル表示
PF	ペンタックスファンクション表示
■	電子音有効表示
■	電池消費表示
■	ストロボ情報表示
24	フィルム枚数表示
○_ _ ○	フィルム状態表示
□	1コマ撮影表示
■	連続撮影表示
■	オートブラケット表示
■	多重露出表示

*露出補正ボタン と測光モード切り替えボタン を同時に押すと、表示パネルを約5秒間照明することができます。

ファインダー内の表示ガイド



- () オートフォーカスフレーム (AFフレーム)
- ⚡ 外付けストロボ情報表示
- [S] 内蔵ストロボ情報表示
- 合焦表示 (ピント情報)
- 8000 Tv表示 (シャッター速度情報)
- 32 Av表示 (絞り情報)
- ⬆ 露出オーバー表示
- ⬇ 露出アンダー表示
- ⬆ 露出補正表示
- 測光モード表示
- * メモリーロック表示



8分割測光について

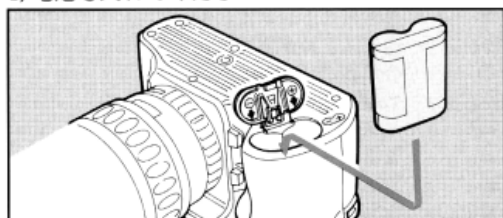
Z-1は、高精度のTTL 8分割測光方式が採用されています。図のように画面の中を分割して測光を行います。様々な光の条件下で最適な露出を得ることができます。

例えば、従来の平均測光方式では逆光の人物撮影のときなどに、背景の明るい部分が全体の露出に影響を与えるため、写したい人物がどうしても暗くなってしまう。これに対して分割測光では、画面のどの部分にどんな明るさのものがあのかカメラが判断し、そのまま撮影しても人物が暗くならないように露出を決定します。その他、逆光以外の明暗差がある条件下でも画面を分割して露出値を計算し、自動的に露出補正をしますから、初心者の方でも安心して撮影を楽しんでいたいただけます。

③

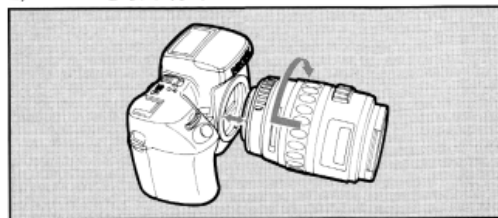
使い方は簡単です！(とにかく撮影してみたい人のために)

1) 電池を入れてください



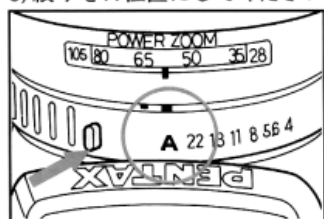
電池ふたを開いて、リチウム電池 2CR5 1本をカメラの表示に合わせて入れます。(10ページ)

2) レンズを取り付けてください



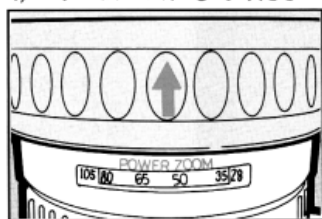
レンズとカメラのマウント指標を合わせてハメ込み、右に止まるまで回してロックします。(12ページ)

3) 絞りをA位置にしてください



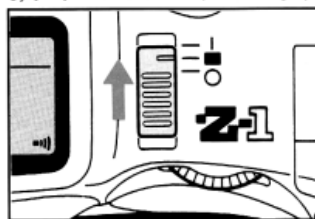
レンズの絞りオートロックボタンを押しながらリングを回し、絞りをA位置に合わせます。(23ページ)

4) パワーズームにしてください



レンズのズームリングを前側に押し出してPOWER ZOOMが見える状態にし、オートズームスイッチを[P]にします。(27ページ)

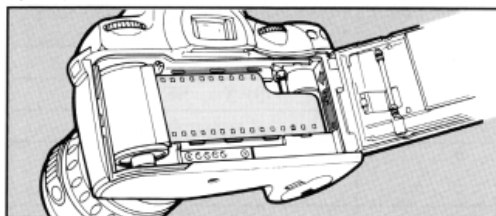
5) グリーンポジションにします



電源スイッチを■ (グリーンポジション) に合わせます。(15ページ)

④

6) フィルムを入れてください



カメラの裏ぶたを開けてフィルムを入れ、先端マークを合わせて裏ぶたを閉めます。自動的に1コマ目まで巻き上がります。(17ページ)

8) パワーズームで構図を決めてください



ファインダーを覗きながらズームリングを回して、写したいものを好みの大きさにしてください。(26ページ)

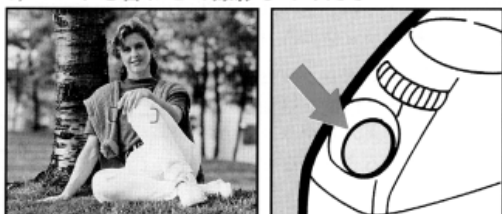
*モードダイヤルが **PF** の位置ではシャッターが切れません。撮影時は、必ず他の位置に合わせてください。

7) オートフォーカスにしてください



フォーカスモードレバーを **SINGLE** に合わせます。(30ページ)

9) ピントを合わせて撮影してください



写したいもの(被写体)をAFフレーム **()** に合わせて、シャッターボタンを静かに押して撮影します。(34ページ)

5

マウントについて

カメラ・レンズのマウントについて

マウントの分類名称	レンズ分類名称	カメラ代表機種名
①K _{AF2} マウント	ペンタックスFAレンズ	Z-1、Z-10
②K _{AF} マウント	ペンタックスFレンズ	SFX _N 、SF7
③K _A マウント	ペンタックスAレンズ	スーパーA、P30 _T
④Kマウント	ペンタックスMレンズ およびペンタックスレンズ	LX、K1000
⑤スクリューマウント	SMCタクマーレンズなど	ESII、SP

①～④のレンズはKマウント(バヨネット式)です。

①～②はオートフォーカス対応レンズです。

③～⑤はマニュアルフォーカスレンズです。

⑤は旧タイプのねじ込み式レンズですから、マウントアダプターKを使って取り付けます。

①～③は絞りリングにA(オート)位置が付いています。

ペンタックスFAレンズはKマウントに以下の機能が追加されたもので、従来のKマウントカメラにも使えるようになっています。

- ・パワーズーム用電源ピン
- ・AFカブラー
- ・レンズ情報接点

Kマウント互換イメージ図

K _{AF2} マウントレンズ			
●パワーズーム用電源ピン ●AFカブラー ●レンズ情報接点	K _{AF} マウントレンズ		
	K _A マウントレンズ		Kマウントレンズ
	●AFカブラー ●レンズ情報接点	●レンズ情報接点	

Z-1と各種レンズを組み合わせたときの機能

機 能	レンズ 〔マウント名〕	FAレンズ 〔K AF2〕	Fレンズ 〔K AF〕	Aレンズ 〔K A〕	Mレンズ 〔K〕	Sレンズ 〔P〕
オートフォーカス (レンズ単体使用) (AFアダプター1.7×使用)		○	○	×	×	×
マニュアルフォーカス (FI表示の利用) ^{注2} (マツト面の利用)		○注3	○注3	○注3	○注3	×
パワーズーム		○注4	×	×	×	×
ズームクリップ		○注4	×	×	×	×
イメージサイズ指定		○注4	×	×	×	×
露光間ズーム		○注4	×	×	×	×
ハイパープログラム自動露出		○	○	○	×	×
プログラム自動露出		○	○	○	×	×
絞り優先自動露出		○	○	○	○注5	○注5
シャッター優先自動露出		○	○	○	×	×
ハイパーマニュアル露出		○	○	○	○注5	○注5
プログラムTTLオートストロボ撮影		○	○	○	×	×
TTLオートストロボ撮影		○	○	○	○	○

注1：レンズの開放F値がF2.8より明るいレンズのみ。(A Fアダプターの説明書をご覧ください。)

注2：ファインダー内の合焦表示  に従って行なう手動のピント合わせ。(F I = フォーカスインジケーター。)

注3：レンズの開放F値がF5.6より明るいレンズのみ。

注4：F Aズームレンズのみ。

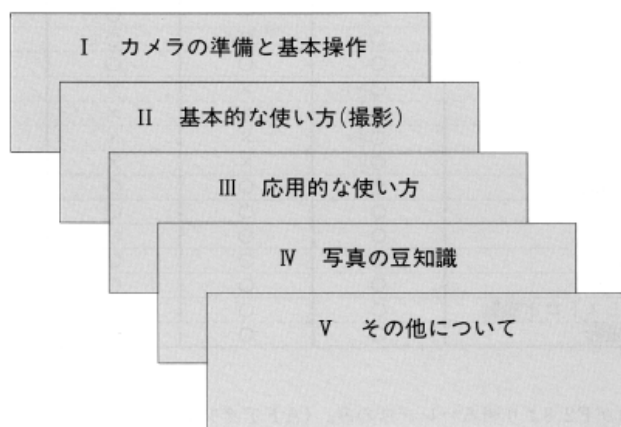
注5：絞りA位置によるAvダイレクトダイヤルでの絞りセットでは使用できません。

※Mレンズ以前(レンズ情報接点のないレンズ)は、8分割測光にならず、中央重点測光になります。(なお、スポット測光は、そのまま動きます。)

7

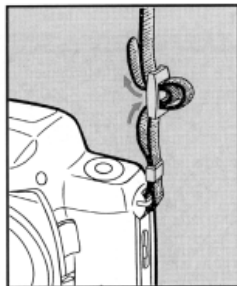
説明書の構成について

説明書を効果的にご利用いただくために、
この説明書は次のように分けられています。



- とにかくZ-1で撮影してみたい方は、「カメラの準備と基本操作」と「基本的な使い方(撮影)」をお読みください。最小限の操作を知っていただくだけで簡単な撮影が楽しみたいだけです。
- 「電池について」(109ページ)「カメラの取り扱い上の注意について」(110ページ)「アフターサービスについて」(121ページ)は必ずお読みください。

(1)ストラップを取り付けます



カメラの準備と基本操作

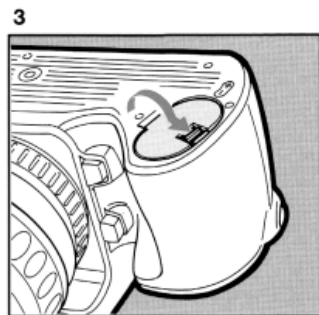
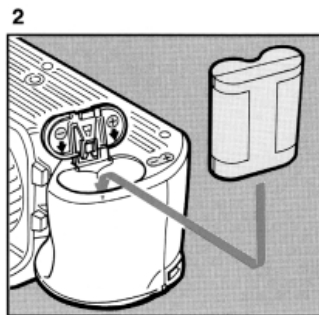
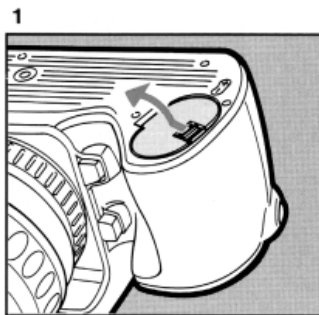
I カメラの準備と基本操作

- 図のように、ストラップを取り付けてください。
- *歩行中に、カメラがあまり揺れないように、腰より上にくる長さに調節してください。
 - *ストラップの先端は、留め具の内側になるように通すと、しっかり取り付けられます。

9

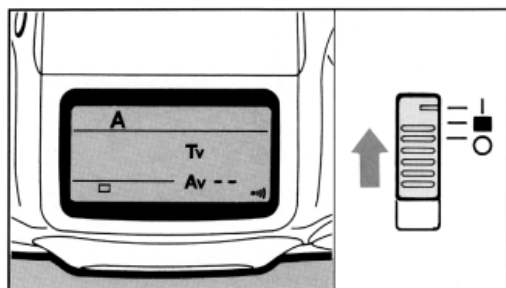
(2)電池を入れます

カメラの準備と基本操作



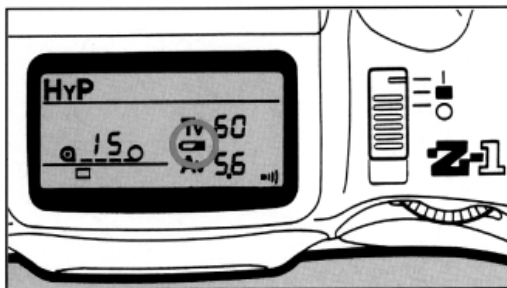
1. 図のように、電池ふたの開放レバーを矢印の方向へ引いて、電池ふたを開きます。
2. 電池の金属接点側を先に、カメラの＋表示に合わせて電池を入れます。
3. 電池ふたを押さえたまま、電池ふた開放レバーを元に戻して電池ふたを閉じてください。

* Z-1 は電池で動きますから、操作をする前には、必ず決められたリチウム電池 **2CR5** 同等品を1個入れます。Z-1 には、サンプルの電池が添付されていますので、この電池をお使いください。



4. 電源スイッチを または にし、図のように表示パネルに表示が出ることを確認してください。

* 電池を上下逆に入れても表示が出る場合がありますが、シャッターボタンを押してもシャッターは切れません。必ず電池を正しい方向に入れてください。



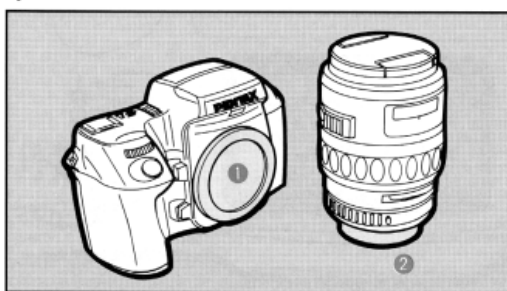
※ 電池が消耗した場合

電池が消耗すると、図のように表示パネルに電池警告 が点灯します。お早めに電池を交換してください。電池警告 が点滅になると、シャッターが切れなくなります。

* 表示パネルの電池警告 が点滅になると、ファインダー内の表示は消灯します。

* 電池を入れ直すと、フィルムカウンターの値と 設定の内容およびISO感度の設定を除いて、Z-1の諸設定は工場出荷時の初期設定に戻ります。

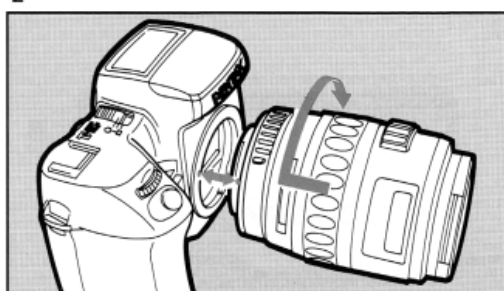
(3) レンズを取り付けます



1. 図のように、①のボディカバーと②のレンズ後カバーを外します。

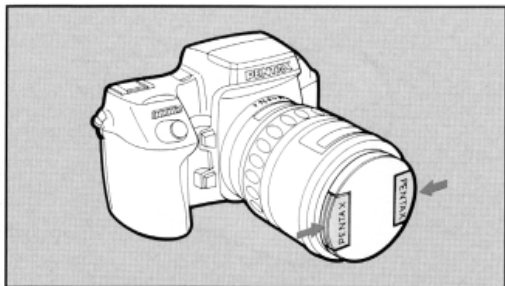
* ボディカバーは工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。保管用には、別売りアクセサリとして「ボディマウントキャップK」が用意されています。

* FAズームレンズの着脱は、不用意なズーム作動を防ぐため、電源スイッチを にした状態で行ってください。



2. ボディとレンズの赤点指標を合わせて、レンズをボディのマウントにはめ込み、レンズを右に回すと「カチッ」と音がしてロックされます。

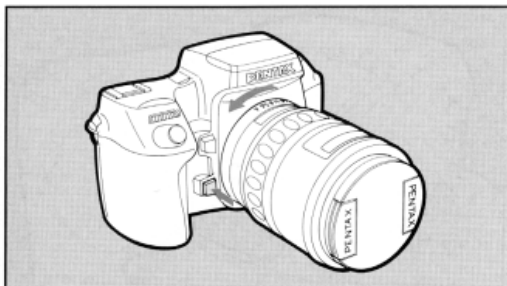
3



3. レンズの前キャップは、図のように矢印部分を内側に押しと外れます。

- * 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。
- * ボディやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

※



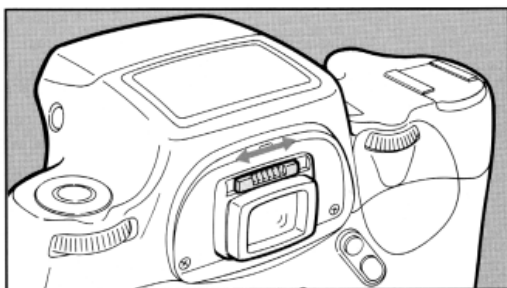
※ レンズを外すには

- レンズを外すときは、レンズロックボタンを押したまま、レンズを左へ回すと外せます。
- * 外したレンズは、接点やカプラーをキズ付けないようにマウント面を上にして置いてください。

13

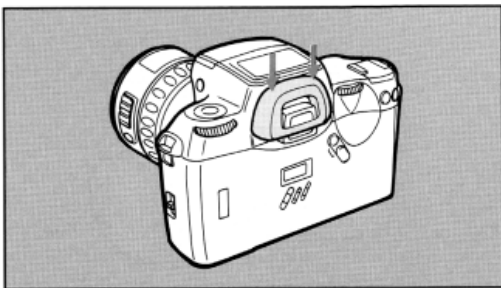
(4)ファインダーの視度を調節します

1



1. カメラを明るい方へ向けて、図のように視度調整レバーを左右に動かし、ファインダー内中央のオートフォーカスフレーム  の線が最もはっきり見える位置に調節します。
- * Z-1 のファインダー接眼部にアイカップF_Dが付いている場合は、押し上げるように取り外してから視度調節をしてください。
- * 視度の調節範囲は、+1.5D～-2.5D (ディオプリー) です。

2



2. 調節が終わったら、アイカップF_Dをファインダー接眼部のアクセサリ取り付け溝に取り付けてください。
- * 取り付けるときは、アイカップF_Dを上から差し込むようにして、アクセサリ取り付け溝に入れてください。

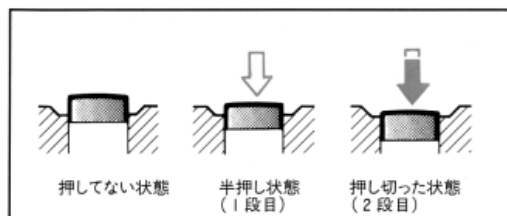
(5) シャッターボタンの操作

Z-1のシャッターボタンは2段階になっています。シャッターボタンを半押し(1段階まで押す)すると、露出計やオートフォーカス機構が動き始めます。さらにシャッターボタンを押し切る(2段階まで押す)と、シャッターが切れ撮影できます。シャッターボタンは、カメラぶれを防ぐためにも、息を止めて指の先でゆっくり押してください。

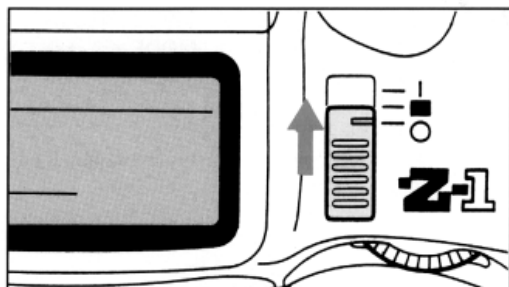
* フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押してみ、どこまで押すと半押しになるのか、感覚をつかんでください。

* モードダイヤルが **ON** になっていると、シャッターボタンを半押ししても露出計の表示やオートフォーカスの作動はしません。また、シャッターボタンを押し切ってもシャッターは切れません。

* 露出計のスイッチは、シャッターボタンを半押し後、指を離しても約5秒間入ったままになります。なお、シャッターボタンの半押しを続けると、露出計スイッチも継続します。



(6) 電源スイッチの操作



カメラの準備と基本操作

電源スイッチは3段階になっています。

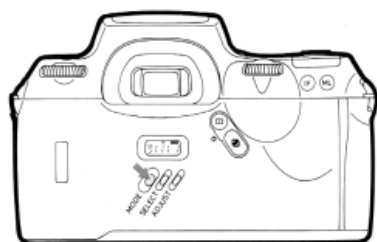
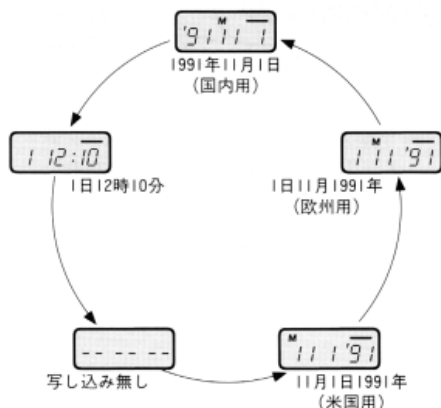
- ☐ = フルスベックポジション
Z-1の全ての機能が使用可能です。
- ☐ = グリーンポジション
簡易撮影モード(プログラム自動露出あるいは絞り優先自動露出での撮影が可能です。)
- ☐ = 電源OFF
使わないときは、必ずこの位置にしてください。

(7) データバックを使います

右図のように、矢印の **MODE** ボタンを押して、写し込みたい内容を選びます。表示は下図のように **MODE** ボタンを押すことになり、表示に出ている日付けまたは時間が写し込まれます。

M は「月」の位置を表わしています。

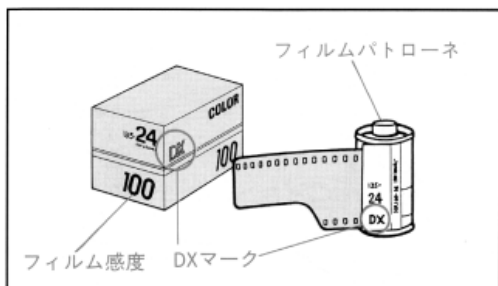
--- はシャッターを切ると点滅をして、日付けや時間が写し込まれたことを知らせます。



- * 日付けや時間の表示は、撮影のたびに写し込まれます。
- * **---** にすると何も写し込まれません。
- * 日付けの表示方法は、3種類あります。
- * データの写る部分(画面右下)に白や黄色のものと、写し込まれたデータが見えにくくなりますので、構図に注意してください。
- * 日付けの修正は、102ページをご覧ください。
- * データバックには、リチウム電池が内蔵されています。データの写り込みが薄くなったり、データバックの表示窓の表示が薄くなったり、消えた場合には電池を交換してください。なお、電池の交換はお近くの当社サービス窓口にて受け付けております。(有料)

(8)フィルムを入れます

1



カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。

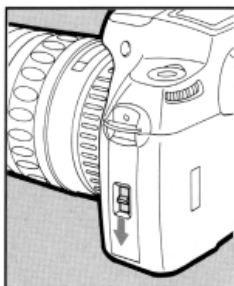
1. 図のように、**[DX]** マークの付いているフィルムを使用すると、フィルム感度は自動的に設定されます。DXフィルムで自動感度設定ができる範囲は、ISO 25～5000までとなっています。

* シャッター幕は非常に薄い幕でできており、精度の高いものです。手やフィルム先端などが当たりますとシャッター幕を破損させる恐れがありますので、絶対に触れないように注意してください。

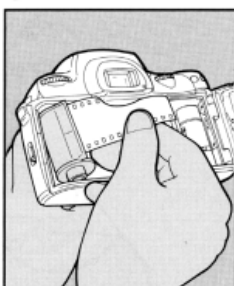
* フィルムを入れるときは、直射日光が当たらないところで行ってください。

* DX以外のフィルムを使用するときは、94ページをご覧ください。

2



3

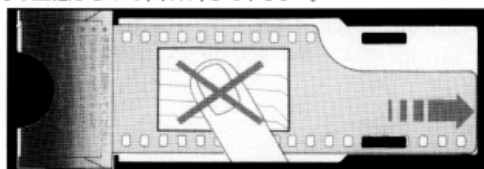


カメラの準備と基本操作

2. 裏ふた開放レバーを矢印の方向へ下げると、裏ふたが開きます。

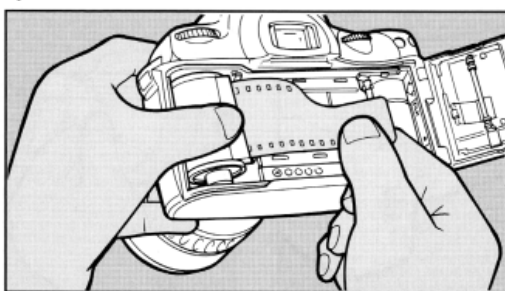
3. フィルムのパトローネを、凸部側を下にして上側から先に入れ、次に下側を入れます。

* カメラを購入後、初めてフィルムを入れるときには、裏ふたを開けて写真のような防傷カバーをシャッター幕に触れないよう注意しながら、取り外してください。



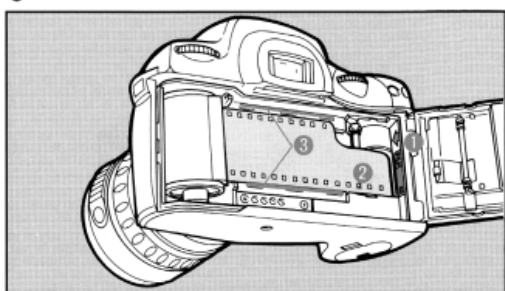
17

4



カメラの準備と基本操作

5



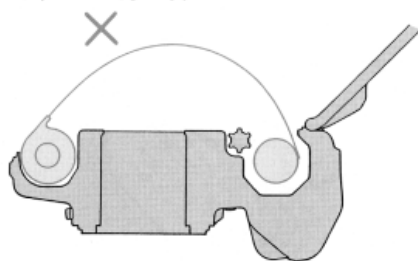
4. 図のように、左手でパトローネを押さえながら、手やフィルム先端がシャッター幕に触れないように気を付けて、フィルムを引き出します。フィルムを引き出し過ぎた場合は、フィルムをパトローネに戻してたるみを取ります。

* フィルム室内のDX情報ピンは、フィルム感度などを読み取る接点です。キズやゴミ、汚れを付けないように、注意してください。ゴミや汚れがあるときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

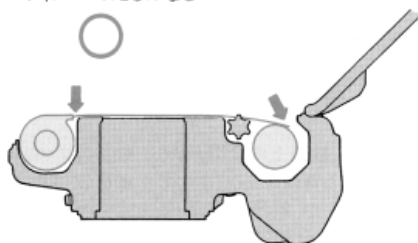
5. 図のように、フィルム先端部を①の赤色先端マークに合わせます。

* フィルムの穴（パーフォレーション）を②の歯（スプロケット）に合わせ、③のガイドレール（図中、赤線部分）の間にフィルムが入っていることを確認してください。

フィルムのたるみあり

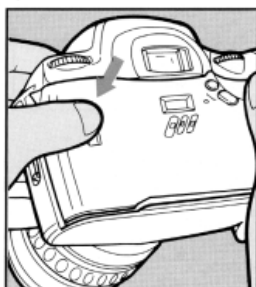


フィルムのたるみなし



*フィルムの先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。

6

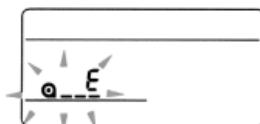


6. 裏ふたを閉め電源スイッチを $\blacksquare$ か $\blacksquare$ にすると、自動的に巻き上げられます。

表示パネルに $\blacksquare$ と $\odot$ が出ていることを確認します。

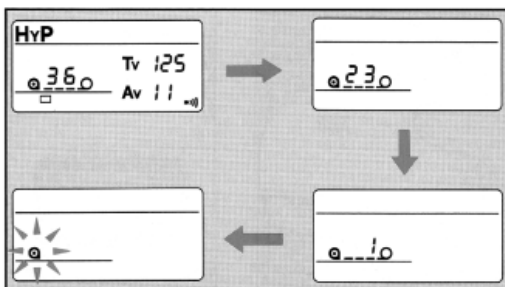
*表示パネルのフィルム枚数表示は、シャッターボタンを押して撮影することによって1ずつ進みます。

*表示パネルに $\odot$ と F が点滅しているときはフィルムが正しく入っていません。裏ふたを開けて、フィルムを入れ直してください。

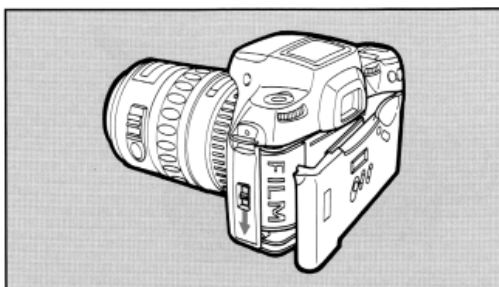


(9)フィルムの巻き戻しについて

1



2



1. フィルムの最後まで撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

* PF 設定で、「フィルム終了時、自動巻き戻ししない」になっている場合は、次ページの「フィルムの途中巻き戻し」にてフィルムを巻き戻し後、フィルムを取り出してください。

* 巻き戻し中は、表示パネルに $\odot$ と F が点滅して巻き戻し中であることを知らせます。

* 巻き戻し中は、表示パネルに撮影枚数が逆算表示されます。

* 巻き戻しが終了すると、表示パネルの $\odot$ が点滅し、撮影枚数の表示が消えます。

* フィルムは直射日光が当たらないところで取り出してください。

2. 裏ふたを開け、フィルムを取り出します。

* 巻き戻しは24枚撮りフィルムで約10秒です。

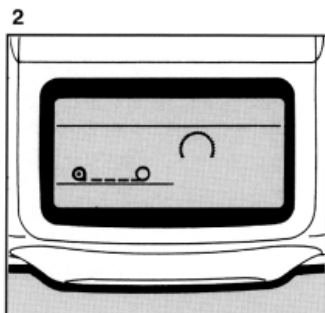
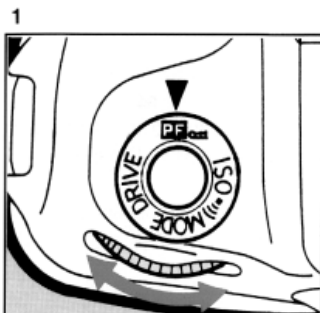
* カメラを使わないときは、電源スイッチを必ず切っておいてください。

* 表示パネルの $\odot$ の点滅を確認してから、裏ふたを開けてください。

* フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合がありますのでご注意ください。

* フィルムの巻き戻しが、電池の容量不足により途中で停止したときには、裏ふたは開けずにそのままの状態、電池の交換をしてください。

* PF 設定で、フィルム巻き戻し完了時にフィルムの先端部分を残すこともできます。(90ページ)



フィルムの途中巻き戻し

フィルムの規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときに使います。

*電源スイッチが O になっていると、途中巻き戻しの操作はできません。

1. モードダイヤルを PF に合わせます。
 2. モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを左に回して、図のように表示パネルの PF 表示を消し、モードセットボタンから指を離します。
 3. Tvダイレクトダイヤルを左に3ステップほど回すと、巻き戻しを開始します。表示パネルの Q の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。
- *途中巻き戻しが始まるまでは、モードセットボタンを押すことで、キャンセルできます。
- *巻き戻し終了後、モードダイヤルを回して、 PF 以外に合わせてください。

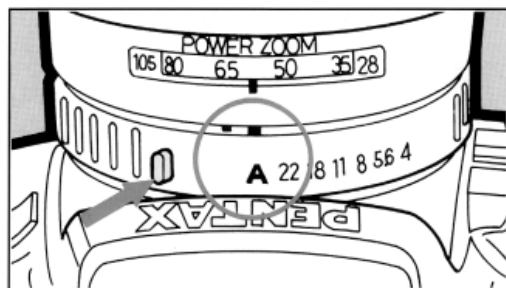
21

(1)最も簡単な露出モードを使います

Z-1カメラには、高度な自動露出機能が付いていますが、ここでは、最も簡単に使える ■ （グリーンポジション）のプログラム自動露出を使用します。他の露出モードについては、応用的な使い方の露出モード（42ページ）をご覧ください。

*プログラム自動露出は、カメラが自動的に露出を決定しますので、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

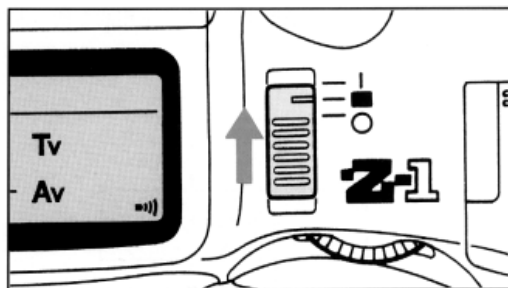
II 基本的な 使い方(撮影)



プログラム自動露出に設定します

1. 図のように、レンズの絞りリングをA位置に合わせます。

* レンズの絞りをA位置に合わせる場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。なお、A位置から外す場合にも、絞りオートロックボタンを押しながらリングを回してください。



2. 電源スイッチを  に合わせます。

* 表示パネルに **P** が出て、プログラム自動露出に設定されます。

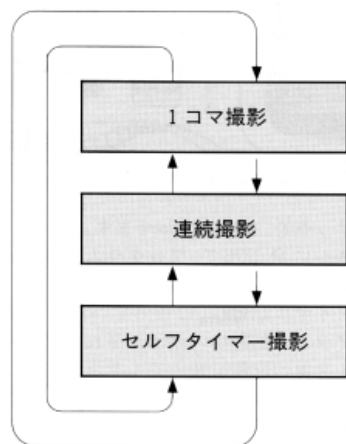
* モードダイヤルが **PP** になっていると、表示パネルにプログラム自動露出の表示はされません。モードダイヤルを他の位置に変えてください。

* レンズの絞りがA位置になっていない場合は、絞り優先自動露出に設定されますので、50ページをご覧ください。

* 電源スイッチが  では、露出補正 (58ページ) が働きません。

(2) 基本的なドライブモードについて

ここでは、電源スイッチが  になっているとして説明します。ドライブモードは次の3種類を選択できます。他のドライブモードを使用する場合は応用的な使い方のドライブモード (59ページ) をご覧ください。



•  = 1コマ撮影

シャッターボタンを押すごとに、1コマずつ撮影されます。最も一般的なドライブモードです。

•  = 連続撮影

シャッターボタンを押し続けると、連続撮影になります。

•  = セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから、約12秒後にシャッターが切れます。

詳しくは、68ページをご覧ください。

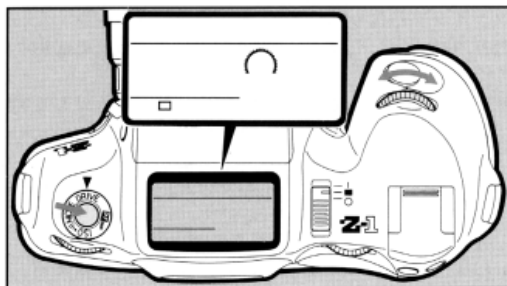
1



ドライブモードの変更方法

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせます。

2



2. モードセットボタンを押したまま、Tvダイレクトダイヤルを回すとドライブモードを変更できます。ここでは、一般的な1コマ撮影 **□** に合わせておいてください。

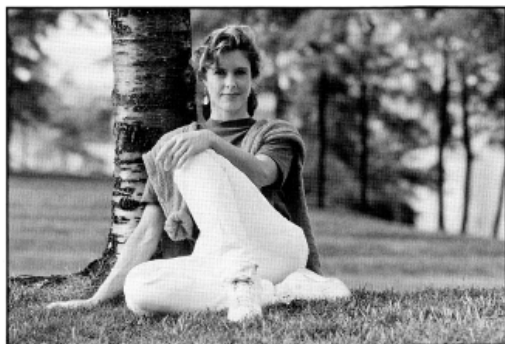
③ズームレンズの使い方

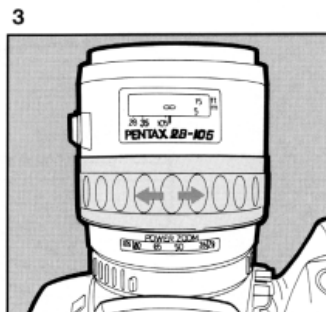
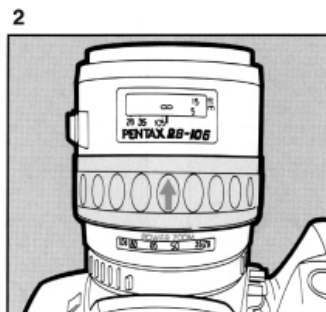
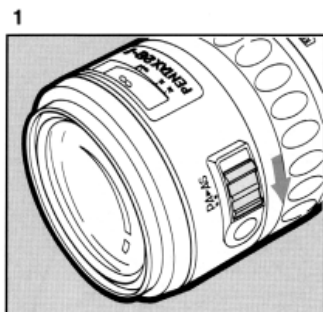
ファインダーを覗きながらズーミング操作をすると、ファインダー像が大きくなったり(テレ)、小さくなったり(ワイド)します。好みの位置に合わせて撮影してください。

* レンズの焦点距離表示の数字が小さいときは写る範囲が広い広角(ワイド)側、大きいときは遠いものを大きく写す望遠(テレ)側になります。

* Z-1にペンタックスFAズームレンズを組み合わせると、パワーズーム(電動ズーム)として使用できます。

* 従来のペンタックスFズームレンズなどを組み合わせる場合は、マニュアルズームとしてご使用ください。





パワーズームで使用するには

* ペンタックス F A ズームレンズのみパワーズームとして使用できます。

1. F A ズームレンズにはオートズームスイッチが付いています。このスイッチを **P** に合わせます。

2. ズームリングを前側に押し出すようにして、図のように

POWER ZOOM が見える状態にします。

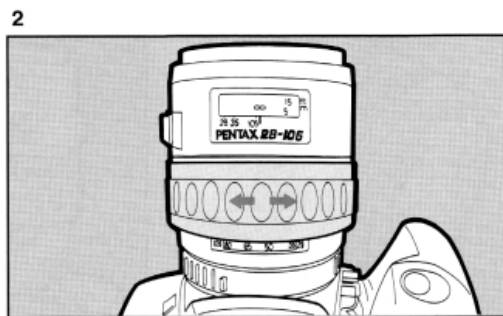
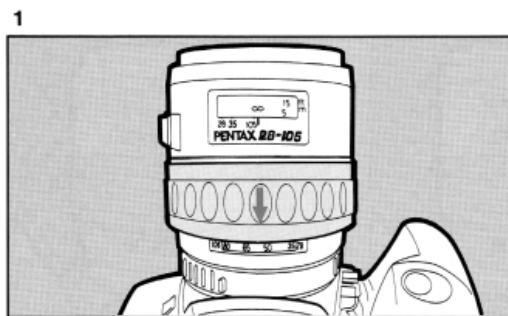
* 工場出荷時は、この状態になっています。

3. ズームリングを右に回すと望遠（テレ）側へ、左に回すと広角（ワイド）側に動き、手を離すと止まります。

なお、ズームリングは、回転させる角度によって、ズーム速度が3段階に変化します。ズームリングの回転角度を大きくする（当て付ける）と高速でズームが動き、小さくすると低速で動きます。その中間位置では、中速でズームができます。

* F A ズームレンズ使用時に電源スイッチを切ると、自動的にレンズの長さが最短になります。この場合、距離リングの位置は∞に、焦点距離はレンズの長さが最短となる位置になります。（F A ズーム100～300mmや250～600mmを除く。）

27



マニュアルズームで使用するには

* F A ズームレンズは、ズームリングの切り替えて、マニュアルズームとしても使用できます。マニュアルズームに切り替えた場合は、従来の F ズームレンズと同様に使用できます。

1. ズームリングを手前に引いて、**POWER ZOOM** が隠れるようにします。

2. ズームリングを右に回すと望遠（テレ）側へ、左に回すと広角（ワイド）側に焦点距離が変化しますので、好みの焦点距離に合わせてください。

(4)カメラの構え方

横位置



縦位置



撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

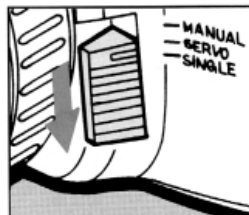
- *シャッターボタンは息を止めて指先で静かに押します。(強く押すとカメラぶれの原因になり、シャープな写真が撮れません。)
- *木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させることも良い方法です。
- *1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用ときは、なるべく三脚を使用してください。また、別売りの「ケーブルスイッチ F」の利用をお勧めします。

*特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

(5)オートフォーカスで使います

図のように、フォーカスモードレバーには3つのポジションがあります。オートフォーカスで使うには、フォーカスモードレバーを **SINGLE** または **SERVO** に合わせます。

ここでは、フォーカスモードレバーを **SINGLE** に合わせておいてください。

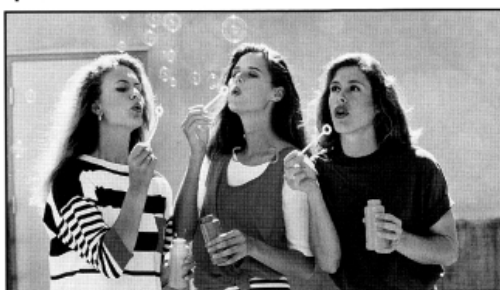


フォーカスモードレバーについて

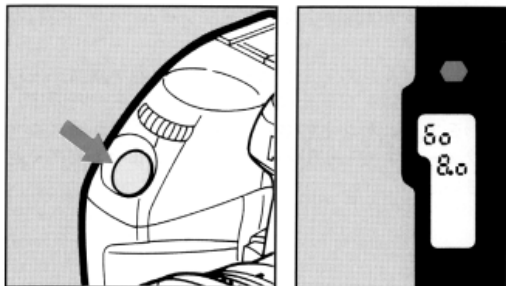
- ・ **SINGLE** = シングル
シャッターボタンを押すとレンズが自動的に動いて、ピントが合うとシャッターが切れるようになる、最も一般的なオートフォーカスモードです。
- ・ **SERVO** = サーボ
シャッターボタンを半押ししている間、被写体距離が変わっても、それに合わせてピントを追いつける、オートフォーカスモードです。また、このモードでは動体予測機能も動きます。
- ・ **MANUAL** = マニュアル
手動でピントを合わせるときに使用します。オートフォーカスの苦手な被写体などのときに合わせます。(40ページ参照)

(6)オートフォーカスでピントを合わせます

1



1. 写真のように、AFフレーム **(C)** を写したいものに合わせます。
- * モードダイヤルが **PF** になっていると、オートフォーカスは働きません。通常は、モードダイヤルを他の位置に合わせておいてください。
- * 構図上、AFフレーム **(C)** がピントを合わせたいものから外れる場合は、「フォーカスロック撮影(32ページ)」をしてください。



2. シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、図のようにファインダー内の  が緑色に光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

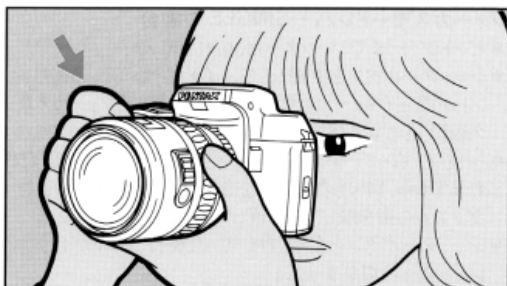
* オートフォーカス作動中は、レンズの距離リングに手をかけたり回転を妨げたりしないでください。

*  が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。

①撮影距離が近すぎる

②オートフォーカスの苦手な被写体の場合(40ページ)

*  設定で、電子音を消すことができます。(95ページ)



3. さらにシャッターボタンを押し切ると、撮影できます。

* SMCペンタックスFソフト85mmF2.8レンズを使用するときは、絞りをF2.8～F4.5で撮影してください。(40ページもご覧ください)

AFシングル撮影:

フォーカスモードレバー の場合

* ピントが合うまでシャッターは、切れません。

* シャッターボタンを半押しして、 が光っている間は、ピントが固定(フォーカスロック)されています。「フォーカスロック撮影」をご覧ください。

* 一度ファインダー内の  が点灯すると、ピントが固定されますから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して押し直してください。

* シャッターボタンを素早く押し切った場合、ピントが合うまでシャッターは切れません。

* 動体予測AFは、作動しません。

AFサーボ撮影:

フォーカスモードレバー の場合

* ピント合わせに関係なくシャッターを切ることができますが、シャッターボタンを半押ししている間、AFフレームを合わせたものにピントを合わせ続けます。

* AFサーボ撮影では、動く被写体に対して動体予測AFを行いませんので、動く被写体に対してピントの合ったシャープな写真を期待できます。

* 連続撮影  時、1コマ目はピントが合わないことがあります。

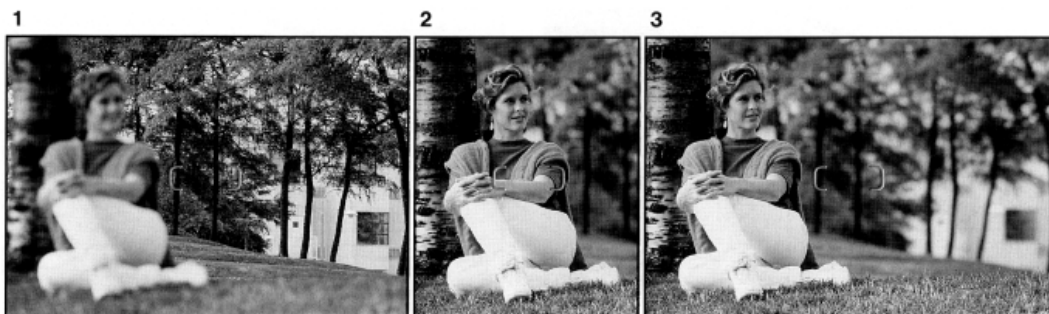
* フォーカスロック撮影はできません。

フォーカスロック撮影について

ピント合わせは画面中央のAFフレーム  で行なわれます。

構図によって、ピントを合わせたいものが画面中央に来ないときは、フォーカスロック(ピント一時固定)撮影をするとピントの合ったきれいな写真が撮れます。

* フォーカスモードレバーを  に合わせてください。



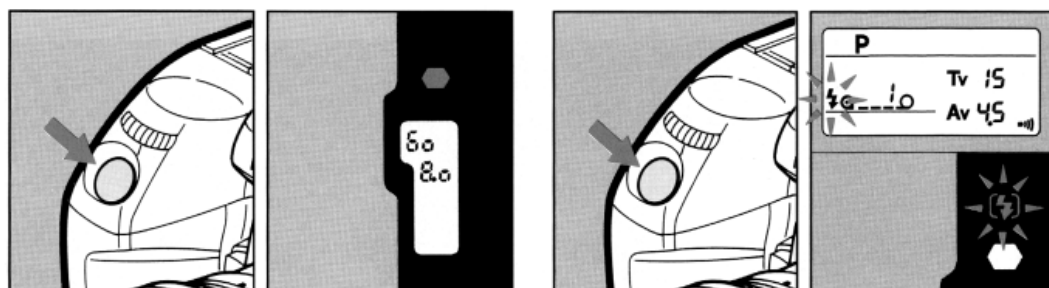
1. AFフレーム  が外れたままで撮影すると、写真のように後ろにピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたいものにAFフレーム  を合わせて、シャッターボタンを半押し状態にして  を点灯させたままにしておきます。(ピントを記憶させる操作です。)

3. シャッターボタンを半押しのまま、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し切って撮影します。
- * シャッターボタンから指を離して、ファインダー内の  が消えると、フォーカスロックは解除されます。
 - * 撮影距離を変えるときは、一度シャッターボタンから指を離して、フォーカスロックをやり直してください。
 - * フォーカスロックは1コマ撮影すると解除されます。

33

(7) 撮影します

(8) 内蔵ストロボの基本的な使い方



シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。さらにシャッターボタンを静かに押し切って、撮影します。シャッターを切ると、自動的にフィルムを巻き上げ、表示パネルの枚数表示が1コマずつ進みます。

* モードダイヤルが **PF** になっていると、シャッターが切れません。通常は、モードダイヤルを他の位置に合わせておいてください。

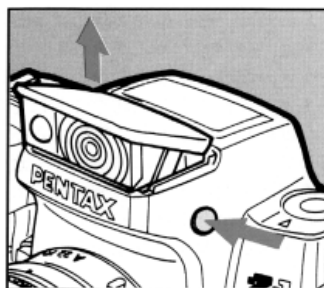
* 被写体が暗い場合や逆光の場合には、ファインダー内に  のストロボお勧め表示が点滅し、カメラがストロボの使用をお勧めします。(表示パネルにも  が点滅表示します。)

* ストロボお勧め表示が出た場合には、内蔵ストロボを使って撮影しましょう。

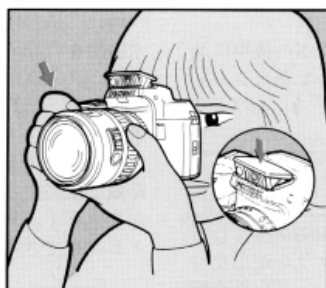
ストロボお勧め表示について

カメラの露出モードをハイプログラム・プログラム・絞り優先自動露出で使用した場合には、ファインダー内  と表示パネル  の点滅(ストロボお勧め表示) ができることがあります。なお、逆光の場合には、シャッター優先自動露出・ハイパーマニュアルでもストロボお勧め表示ができることがあります。

1



2



(ISO 100のとき)

使用レンズの開放絞り値	撮影距離範囲
F1.4~2.8	約1~約5m
F3.5	約0.8~約4m
F4.7	約0.7~約3m
F5.6	約0.7~約2.5m

基本的な使い方

1. 図のように、ストロボスイッチを押して、ストロボを上飛び出させます。

* 充電が自動的に始まり、充電が終わると、表示パネルに「」が表示されます。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にも「」が点灯表示されます。(充電時間は約3秒です)

2. シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内にストロボ同調速度と絞りが表示されます。

さらにシャッターボタンを押してストロボ撮影をします。撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押しで収納してください。

プログラムTTLオートストロボで撮影できる範囲の目安

ストロボ撮影できる距離は、上表のように、ご使用になるレンズの開放絞り値により変化しますのでご注意ください。開放絞り値は、レンズに「1:1.4」のように表示されています。(F1.4の場合)

* 露出モードがハイパープログラムおよびプログラム自動露出の場合、内蔵ストロボはプログラムTTLオートストロボとして働きます。

* プログラムTTLオートストロボで撮影できる最短距離は、レンズの開放絞り値がF4.5より暗いレンズを使用しても約0.7mと一定になります。

ご使用上の注意

レンズが不適切な場合の警告表示

下記のF・FAレンズおよび、内蔵ストロボの使用に適さないF・FAレンズでは、充電が完了してからシャッターボタンを半押しすると表示パネルの「」やファインダー内の「」が点滅して警告します。

レンズの焦点距離が35mm未満の場合
マクロレンズの場合

警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出たりしますのでご注意ください。FA・Fレンズ以外を使用した場合は警告表示がされませんから、特にご注意ください。

* **[PF]** 設定で、不適切レンズ使用時に内蔵ストロボの発光を禁止することができます。(89ページ)

* ストロボの光路を遮ることがありますので、レンズフードは使わないでください。

* 35mmの焦点距離で撮影する場合、配光ムラが出ることがありますので、1m以上の距離で撮影してください。

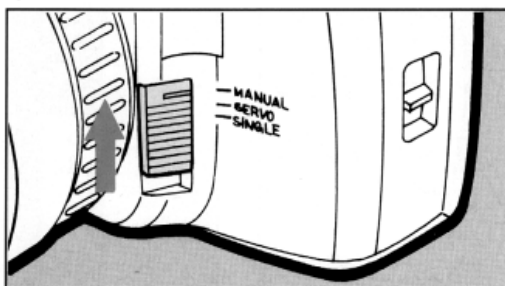
* FAズーム28~105mmレンズの場合、焦点距離が約40mm以下の広角側で内蔵ストロボを使用すると画面下部に半円形のケラレが出ることがあります。

赤目現象について

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用すると軽減することができます。外付けのストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。

III 応用的な使い方

1



応用的な使い方

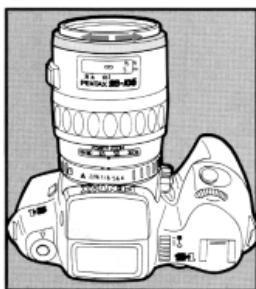
1) マニュアルフォーカスレンズを使う場合
従来のK_AやKマウントレンズで、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ (F1.2~5.6) を使うと、ファインダー内の合焦表示  を利用した手動ピント合わせができます。

使い方

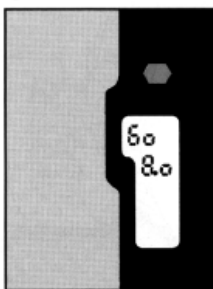
1. フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットします。

37

2



3



応用的な使い方

* ピントが合うと、ファインダー内の合焦表示  の点灯と同時に「ピピッ」と電子音が鳴りますが、 設定で電子音を消すこともできます。(95ページ)

スナップインフォーカス撮影について

K_AおよびKマウントレンズを使用して、フォーカスモードレバーを **SINGLE** にセットすると、別売りの「ケーブルスイッチF」を利用してピントが合ったときに自動的にシャッターが切れるスナップインフォーカス撮影ができます。

1. レンズはK_AおよびKマウントレンズを使用します。
2. フォーカスモードレバーを **SINGLE** にセットします。
3. 写したいものが通りそうな位置にピントを合わせます。
4. ケーブルスイッチFを使って、シャッターボタンを押し切った状態にします。
5. 写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

2. ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態で、レンズの距離リングを左右に回してください。

3. ピントが合うとファインダー内の合焦表示  が点灯して知らせます。そのままシャッターボタンを押し切って撮影してください。

* K_{AF}およびK_{AF2}マウントレンズを使用しても、フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットすると同じ操作になります。

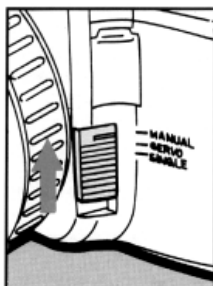
* 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けても、ファインダー内の合焦表示  によるピント合わせはできません。

オートフォーカスが使えない場合

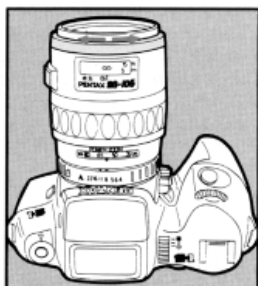
以下の理由で、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示  が使えない場合は、ファインダーのマット面を利用して従来の一眼レフカメラと同様に手動でピント合わせをしてください。

- 「オートフォーカスの苦手な被写体」で合焦表示  が点滅するとき。
- 開放F値がF5.6より暗いレンズを使っているとき。
- ペローズ100mm F4、シフト28mm F3.5（シフト状態）、レフレックスタイプのレンズを使用したとき。
- 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けて使用したとき。

1



2



使い方

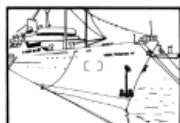
- フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットします。
- ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを左右に回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。

応用的な使い方

(2) オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構はきわめて高精度のものですが、万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。ファインダー内の合焦表示  を利用してピント合わせを行なう手動ピント合わせも同様です。そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロックをしたり、フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

- A F フレーム  に白い壁などの極端にコントラスト（明暗差）の低い被写体がある場合。
- A F フレーム  に光を反射しにくい被写体がある場合。
- 非常に速い速度で移動している被写体。
- A F フレーム  に横線のみ被写体や細かな模様被写体がある場合。
- 遠近のものが A F フレーム  の中で同時に存在する場合。
- 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい被写体）。



アクセサリーの注意

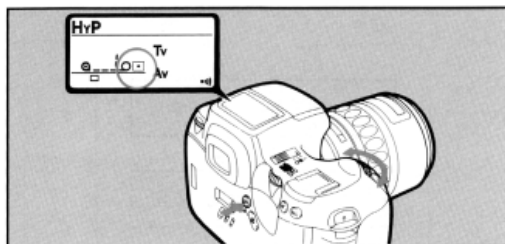
以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示  を利用した手動ピント合わせができません。ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをしてください。

- 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使った場合。
- オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときは円偏光フィルターをご利用ください。
- 「接写リング」や「オートペローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

SMCペンタックス F ソフト85mm F2.8 使用時の注意

約1.5mより近距離の撮影をするときは、レンズの絞りをF2.8～4.5でご使用ください。これより小絞り（F5.6～32）にすると、カメラのオートフォーカス（F1も同様）が誤合焦することがあります。F5.6以上の絞riを使う場合には、一旦レンズの絞りをF4.5に合わせてピント合わせを行ない、フォーカスロックをしたまま希望の絞りに回して撮影してください。

(3)測光方式の切り替えについて



Z-1は、撮影者の好みで分割測光とスポット測光を切り替えることができます。

被写体の限られた部分だけに露出を合わせたいときなどにスポット測光をご利用ください。

電源スイッチを I にして、測光切り替えボタン [] を押しながらTvダイレクトダイヤルを回すと分割測光とスポット測光を交互に切り替えることができます。

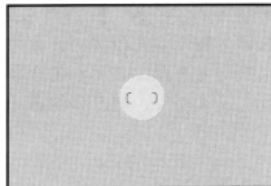
*電源スイッチが II では、測光モードは分割測光になり測光方式の切り替えはできません。

*測光方式をスポット測光にすると、表示パネルに [] が表示されます。シャッターボタンを半押しするとファインダー内にも [] が表示されます。

* [] 設定で、測光モードの切り替えを分割測光と中央重点測光とにすることができます。(86ページ参照)

*レンズ情報接点のないレンズ(Mレンズ以前)を使用したときは、分割測光にならず、中央重点測光になります。

スポット測光について
図のように、ファインダー中央部の限られた範囲だけに露出を測りますので、中央に被写体の露出を合わせたい部分を入れて撮影してください。



メモリーロックについて

メモリーロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。

被写体が非常に小さく、適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

1. 露出を合わせたい物がスポット測光の範囲いっぱいに入るようにして、メモリーロックボタン [ML] を押します。

*メモリーロックボタン [ML] を押すと5秒間タイマーが働き、露出が記憶されます。

*メモリーロック中に、シャッターボタンを半押しし続けると、メモリーロックボタン [ML] から指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。

2. 好みの構図に戻して、撮影します。

*メモリーロック中は、ファインダー内に [] が表示されます。

*メモリーロック中にメモリーロックボタン [ML] を押すと途中解除できます。

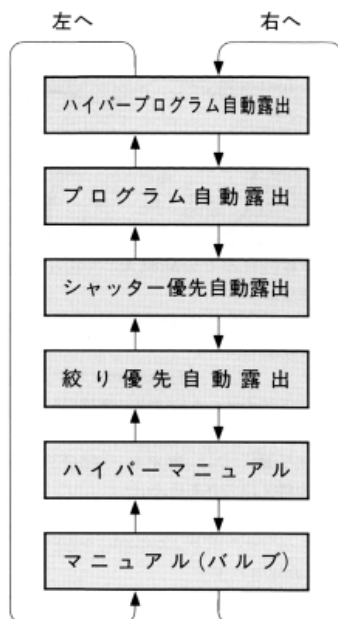
応用的な使い方

(4)各露出モードを選びます

電源スイッチを I (フルスペックポジション) にすると、絞りがA位置のままでZ-1の持つ全ての露出モードを選ぶことができます。従来のように露出モードによって、絞りの位置を切り替える必要がありません。

露出モードの変え方

Z-1に右図のように6つの露出モードがあり、モードダイヤルを MODE に合わせ、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回すと矢印の順で露出モードを変えられます。各露出モードについては、それぞれのページの説明をご覧ください。

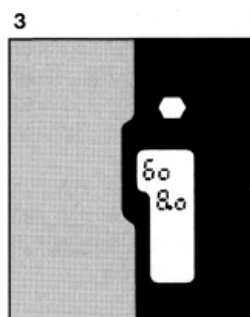
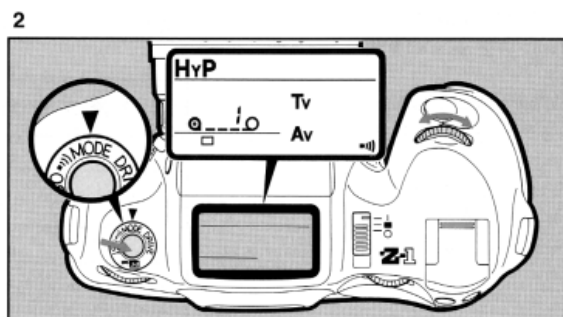
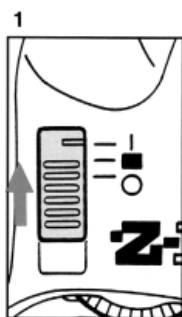
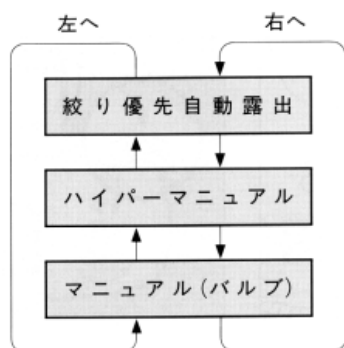


応用的な使い方

以下の場合には、絞りをA位置から外してご使用ください。なお、Aレンズより前のレンズ(Aポジションのないレンズ)を使用する場合も同様の扱いになります。

- ・プレビューボタンにより被写界深度を確認する場合。
- ・接写リングなど、絞りの連動がきかないアクセサリーを使用した場合。
- ・旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないもの。

絞りがA位置以外では、右図のように3つの露出モードが選べ、矢印の順で変化します。モードの変え方は、絞りがA位置の場合と同様です。



1) ハイパープログラム自動露出の使い方

ハイパープログラム自動露出は、プログラム自動露出(46ページ参照)でありながら、ワンタッチでシャッター速度優先自動露出や、絞り優先自動露出に切り替えられるモードです。

絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながら **Tv** ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HvP** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞りが表示されます。

* **PF** 設定で、プログラムラインをノーマルプログラムから高速優先、深度優先およびMTF優先プログラムに切り替えることができます。(86ページ参照)

シャッター速度を変えたい場合

Tvダイレクトダイヤルを回すと、即座にシャッター優先自動露出に切り替わります。好みのシャッター速度をTvダイレクトダイヤルで選んでください。(シャッター優先自動露出については48ページをご覧ください)

* シャッター速度は、絞り値が連動する範囲内でしか設定できません。(PF設定でシャッター速度のシフトを禁止(87ページ)した場合を除く。)

* 明るさが変わり、絞り値が連動範囲外になったときは、自動的にシャッター速度がシフトし、表示パネルの $\odot$ とファインダー内のシャッター速度表示の下横棒が点滅します。

PF設定で、シャッター速度のシフトを禁止することができます。(87ページ参照)

* IFボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。

※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご利用ください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

絞りを換えたい場合

Avダイレクトダイヤルを回すと、即座に絞り優先自動露出に切り替わります。好みの絞り値をAvダイレクトダイヤルで選んでください。(絞り優先自動露出については50ページをご覧ください)

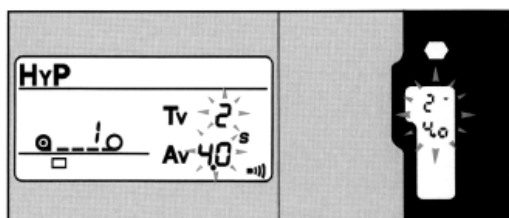
* 絞り値は、シャッター速度が連動する範囲内でしか設定できません。(PF設定で絞り値のシフトを禁止(87ページ)した場合を除く。)

* IFボタンを押すと、ハイパープログラムモードに戻ります。

* 明るさが変わり、設定した絞り値の範囲外になったときは、自動的に絞り値がシフトし、表示パネルの $\odot$ とファインダー内の絞り値表示の下横棒が点滅します。

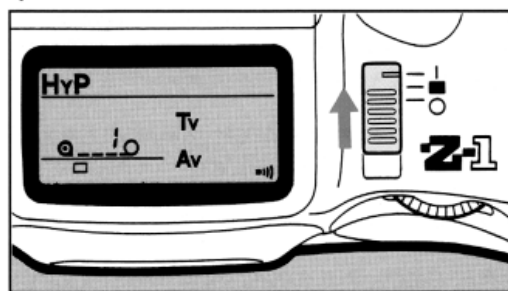
PF設定で、絞り値のシフトを禁止することができます。(87ページ参照)

応用的な使い方



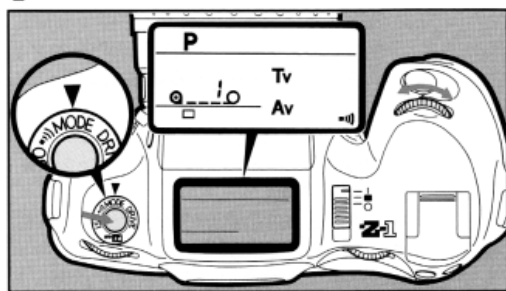
45

1



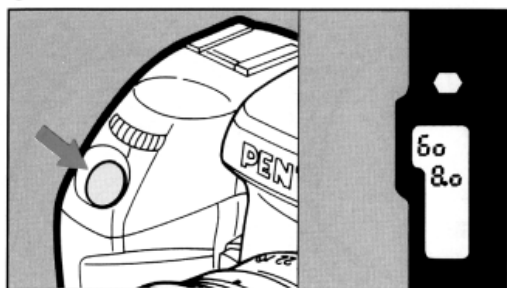
応用的な使い方

2



絞りをA位置にします。

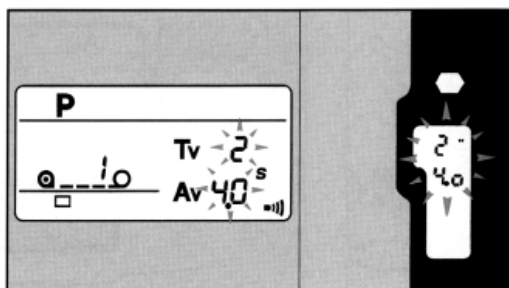
1. 電源スイッチを $\square$ I にします。
2. モードダイヤルをMODEにして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルにPの表示を出します。



3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

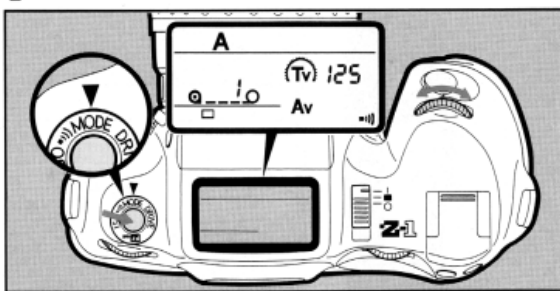
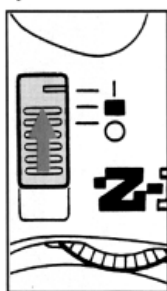
* 電源スイッチが で、絞りをA位置にすると、このモードになります。

* 設定で、プログラムラインをノーマルプログラムから高速優先、深度優先およびMTF優先プログラムに切り替えることができます。(86ページ参照)



※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご利用ください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。



3) シャッター優先自動露出の使い方

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に変わり、適正露出が得られます。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を出すのに適しています。

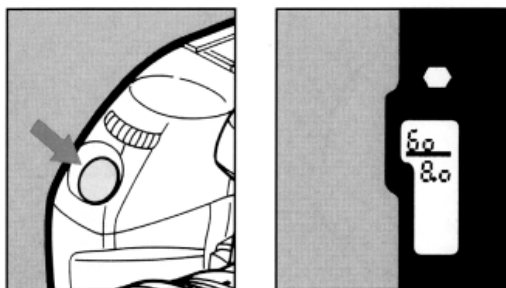
絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを にします。

2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** と **Tv** の表示を出します。

3. Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。

* 右に回すとシャッター速度が速くなり、左に回すと遅くなります。



4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

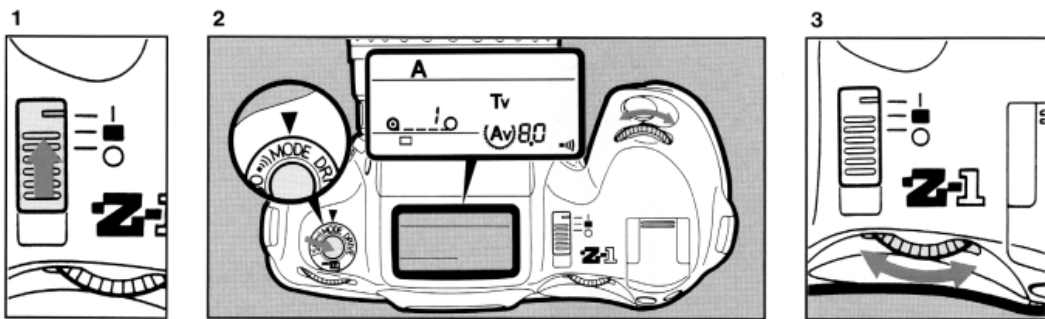
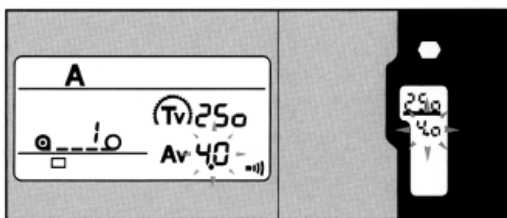
* ファインダー内のシャッター速度表示の下、の横棒は、シャッター速度が変更可能であることを表わしています。

* **[PF]** 設定で、シャッター速度の設定を1EVステップから0.5EVステップに変えられます。(87ページ参照)

※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの絞り値表示が点滅して警告します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。



4) 絞り優先自動露出の使い方

希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。ビントの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。

絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを **[I]** にします。
 2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **[A]** と **[Av]** の表示を出します。
 3. Avダイレクトダイヤルで絞りを変えます。
- * 右に回すと小絞り側に(数字の大きい方)、左に回すと開放絞り側(数字の小さい方)になります。



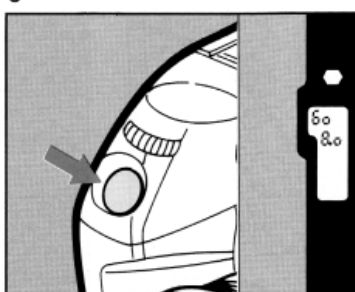
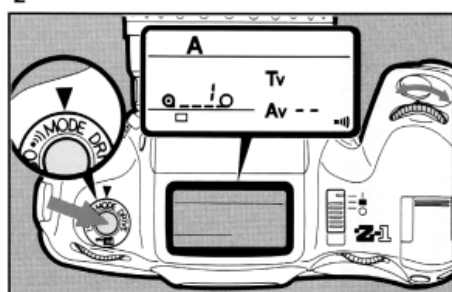
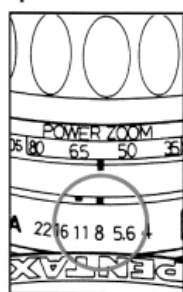
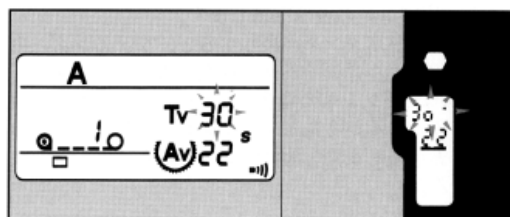
4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

* ファインダー内の絞り表示の下横棒は、絞り値が変更可能であることを表わしています。

※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルのシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側(数字の大きい方)に、暗すぎるときは絞りを開放側(数字の小さい方)にして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。



絞りをA位置以外にした場合

絞りがA位置以外でも絞り優先自動露出が使えます。

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。

2. モードダイヤルをMODEにして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルにAの表示を出します。

3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度が表示されます。

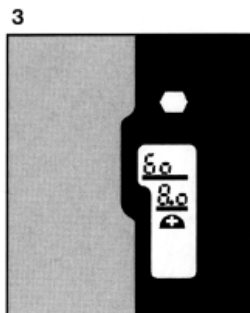
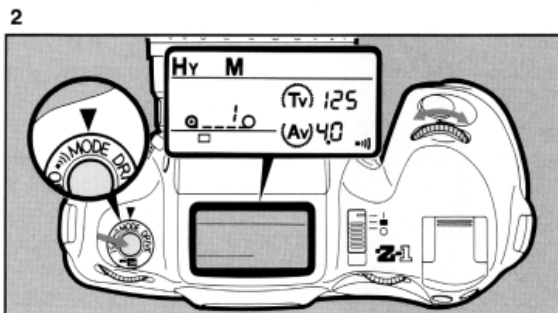
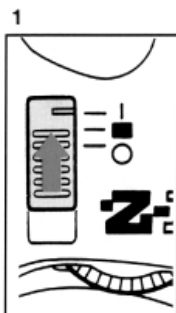
* FAおよびFレンズの場合、シャッターボタンを半押しすると表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表示をします。他のレンズの場合は、表示されません。

* 電源スイッチが $\blacksquare$ で、絞りをA位置以外にした場合もこのモードになります。

* 絞りがA位置以外の絞り優先自動露出のとき、プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。なお、プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。

※露出警告

露出警告は、絞りがA位置のときと同じですから51ページを参照してください。



5) ハイパーマニュアル露出の使い方

露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で撮影することもできます。

絞りをA位置にした場合

1. 電源スイッチを「I」にします。

2. モードダイヤルを「MODE」にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに「HvM」の表示を出します。

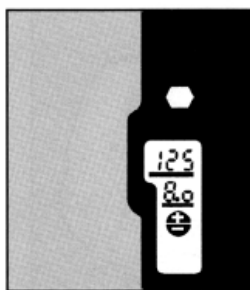
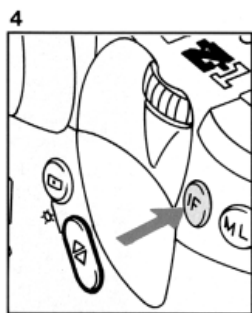
* 表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。

3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、絞り値と $\frac{1}{25}$ あるいは $\frac{4.0}{f}$ が表示されます。

* ファインダー内のシャッター速度と絞り表示の下横棒は、シャッター速度と絞り値が変更可能であることを表わしています。

応用的な使い方

53



4. 「IF」ボタンを押すと、シャッター速度と絞り値が自動的に切り替わり、即座に適正露出が得られ、ファインダー内に $\frac{1}{25}$ が表示されます。その後、Avダイレクトダイヤルで絞りを、Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えれば、好みの露出値で撮影することができます。

* 「IF」ボタンを押すと、「PF」設定で選択した、プログラムラインに従って絞りシャッター速度をシフトします。(86ページ)

* $\frac{1}{25}$ の点灯は+1EV以内の露出オーバー、 $\frac{4.0}{f}$ の点灯は-1EV以内の露出アンダーです。±1EV以上の露出オーバー、アンダーのときは $\frac{1}{25}$ 、 $\frac{4.0}{f}$ 表示が点滅します。

* Avダイレクトダイヤルは、右に回すと小絞り側に(数字の大きい方)、左に回すと開放絞り側(数字の小さい方)になります。Tvダイレクトダイヤルは、右に回すとシャッター速度が速くなり、左に回すと遅くなります。

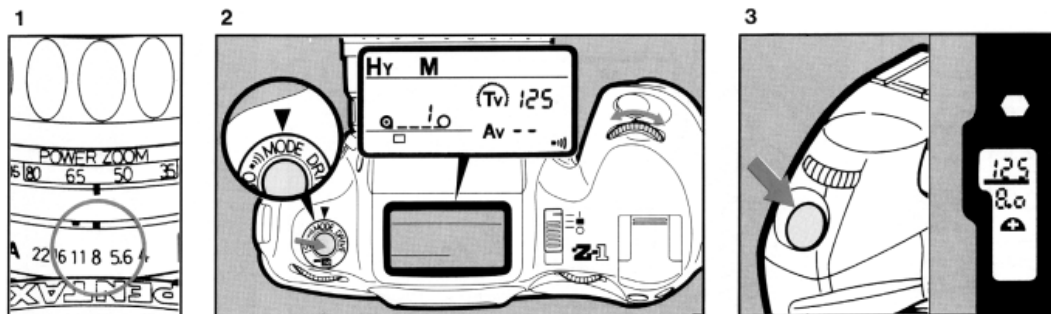
* 「PF」設定で、「IF」ボタンによる適正露出の求め方を、シャッター速度だけ、あるいは絞り値だけが変化するようにすることができます。(88ページ)

メモリーロックとの組み合わせ

絞りがA位置のハイパーマニュアルのとき、メモリーロックボタン「ML」を押して、露出値を記憶させることができます。(41ページメモリーロック参照)この状態で、Tvダイレクトダイヤルを回してシャッター速度を変えるとそれに応じて絞り値が、逆にAvダイレクトダイヤルを回すとそれに応じてシャッター速度が変化し、同じ露出値を保ちます。

応用的な使い方

54



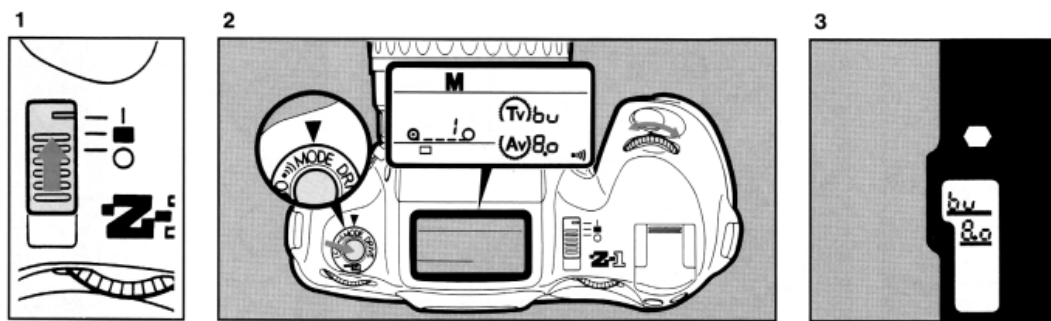
絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを**MODE**にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに**HvM**の表示を出します。
*表示パネルにシャッター速度が表示されます。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度が表示されます。
絞りリングで絞りを、Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。
*露出の合わせ方は、絞りがA位置の場合と同じです。

- *FAおよびFレンズの場合、シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表示をします。他のレンズの場合は、表示されません。
- ***I/F**ボタンを押すと、シャッター速度が切り替わり、即座に適正露出が得られます。
- *絞りがA位置以外のハイパーマニュアル露出のとき、プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。

応用的な使い方

55



6) マニュアル露出(バルブ)の使い方

花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

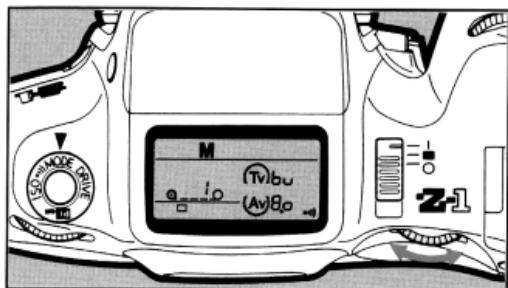
絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを**I**にします。
2. モードダイヤルを**MODE**にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに**M**と**bU**の表示を出します。
*表示パネルに絞り値が表示されます。

3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に**bU**と絞り値が表示されます。
*ファインダー内の**bU**の下横棒は、シャッターボタンを押している時間によって露出時間が自由に選べることを表わし、絞り表示の下横棒は、絞り値が変更可能であることを表わしています。

応用的な使い方

56



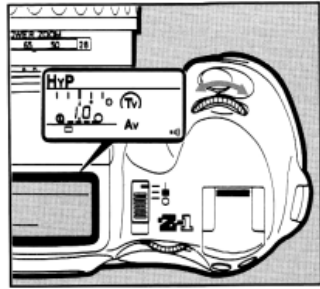
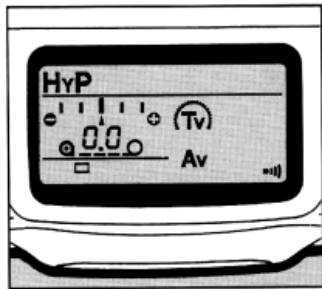
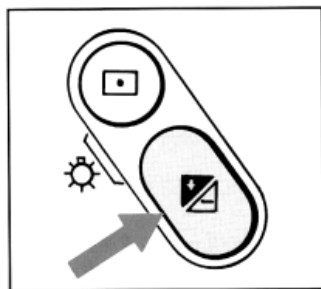
4. Avダイレクトダイヤルで絞りを選びます。

* Avダイレクトダイヤルは、右に回すと小絞り側(数字の大きい方)、左に回すと開放絞り側(数字の小さい方)になります。

絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを**MODE**にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに**M**と**b u**の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に**b u**が表示されます。
 - * FAおよびFレンズの場合、シャッターボタンを半押しすると表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表示をします。他のレンズの場合は、**---**表示になります。
 - * バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチF」をレリーズソケットに差し込んでご利用ください。
 - * 新品のリチウム電池(常温)で、約6時間の長時間露出ができます。
 - * 絞りがA位置以外のマニュアル露出(バルブ)のとき、プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
 - * シャッターボタンを押している間、表示パネルの右上に露出時間が表示されます。

(5) 露出補正について



意図的に露出オーバー(明るい写真)や露出アンダー(暗い写真)にしたいときや、分割測光でも適正露出にならないような条件のときに露出を補正するために使います。

露出補正ボタンを押すと表示パネルに補正値と露出インジケータが表示されます。Tvダイレクトダイヤルを回して希望の補正値を選んでください。

* 補正値は、-4 ~ +4 EVの範囲で0.3 EVごとに行えます。

* 露出インジケータの表示は、-2 ~ +2 EV (0.3 EVごと) までです。この範囲を越えた値を設定した場合は、インジケータの、が点滅して知らせます。

* 露出補正中は、表示パネルの露出インジケータと、

ファインダー内のが表示されます。

* 電源スイッチを切っても露出補正は解除されません。

* 電源スイッチがの場合は、露出補正は働きません。

* 設定で、露出補正のステップを0.3 EVごとから0.5 EVごとに変更できます。(87ページ参照)

この場合、表示パネルの補正表示が±3 EVを越えたときに、インジケータの、が点滅して知らせます。

* 露出補正ボタンと測光モード切り替えボタンを同時に押すと、表示パネルを約5秒間照明することができます。

(6)ドライブモードを選びます

Z-1カメラには、表のように多くのドライブモードがあり、モードダイヤルを**DRIVE**に合わせ、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回すとドライブモードを変えられます。カメラの状態によって使用できるドライブモードが若干異なります。

※電源スイッチが**■**の場合や露出モードが**HvM・MbU**では、ドライブモードの一部が使えません。

ドライブモード	グリーン ポジション	フルスペックポジション					
		HvP	P	AAV	ATV	HvM	MbU
1コマ撮影	○	○	○	○	○	○	○
連続撮影	○	○	○	○	○	○	○
オートブラケット撮影	×	○	○	○	○	×	×
多重撮影	×	○	○	○	○	○	○
インターバル撮影	×	○	○	○	○	○	×
トリプルセルフタイマー撮影	×	○	○	○	○	○	×
2秒セルフタイマー撮影	×	○	○	○	○	○	×
セルフタイマー撮影	○	○	○	○	○	○	×

○：使用可能 ×：使用不可能

HvP：ハイパープログラム

P：プログラム

AAV：絞り優先

ATV：シャッター優先

HvM：ハイパーマニュアル

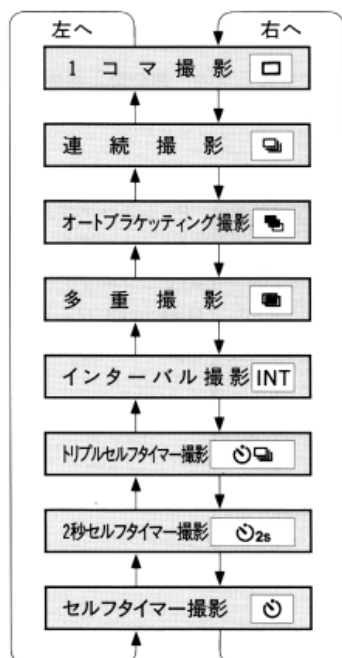
MbU：マニュアル(バルブ)

応用的な使い方

59

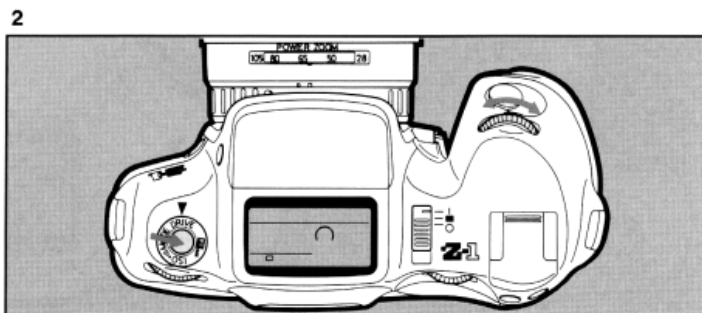
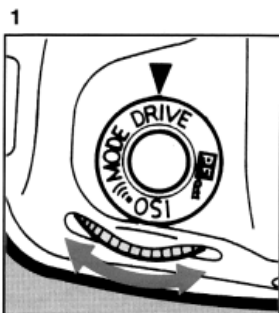
ドライブモードの種類

- ：シャッターボタンを押し切ると、1コマだけシャッターが切れます。
- ：シャッターボタンを押し切っている間、連続的にシャッターが切れます。
- ：3コマ連続で露出補正撮影をします。
(62ページ参照)
- ：同じコマに、重ねて撮影します。
(64ページ)
- INT**：自動間欠撮影をします。
(65ページ)
- ：3コマ連続セルフタイマー撮影をします。
(70ページ)
- ：タイマー作動時間が2秒のセルフタイマー撮影をします。
(69ページ)
- ：通常のセルフタイマー撮影をします。
(68ページ)



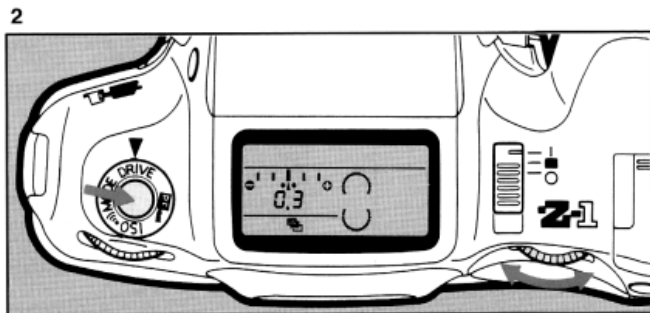
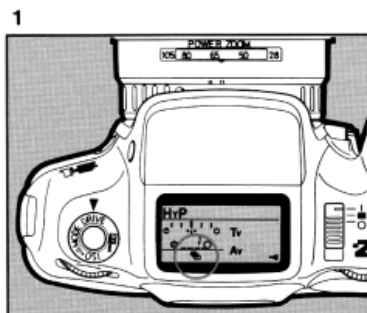
応用的な使い方

60



ドライブモードの変更方法

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせます。
2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回してドライブモードを選択します。
希望のドライブモードが表示パネルに出たら、モードセットボタンから指を離して決定します。



1) オートブラケット撮影の使い方

オートブラケット撮影は、各種自動露出で撮影時に露出補正が必要な被写体で、最終的な補正値を決定しにくいときなど、3コマ連続の段階露出を行なうことができます。

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせ、ドライブモードをオートブラケット撮影  に変更します。(61ページ参照)

2. 図のように、モードセットボタンを押したままAvダイレクトダイヤルを回して、補正量を決めます。

* 補正量の初期値は、 $\pm 0.3\text{EV}$ 刻みになっていますが、**PF** 設定で $\pm 0.5\text{EV}$ 刻みに変更可能です(87ページ)。

* 補正量が表示パネルにでますので、補正量を決めたら、モードセットボタンから指を離すと補正量が記憶されます。なお、電池を入れ替えるまでは前回の補正量が残っています。



3. シャッターボタンを押し切ると、記憶させた補正量に従って3コマ連続的に撮影されます。

* 1コマ目=±0、2コマ目=アンダー露出、3コマ目=オーバー露出の順で撮影されます。

* 1コマ目の撮影終了後、シャッターボタンを半押しに戻すと、表示パネルの が点滅して2コマ目の撮影の待機状態となり、シャッターチャンス等待つてことができます。このとき、シャッターボタンから指を離した場合、表示パネルの は約5秒間点滅した後点灯になり、再度1コマ目の待機状態に戻ります。

* 内蔵ストロボを使用すると、オートブラケットン

グ撮影モードは解除され、1コマ撮影モードになります。

* 補正量が小さい場合、ネガフィルムではほとんど効果が得られませんのでご注意ください。(特にネガカラーのオートプリント仕上げの場合。)

* オートブラケットン撮影中は、1コマごとに測光を行いません。

* ピントは、1コマ目の撮影位置でフォーカスロックされます。

露出補正と組み合わせて使う場合

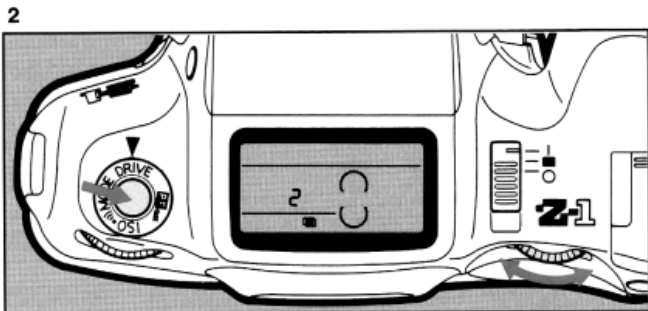
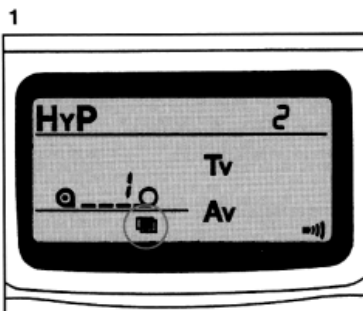
「露出補正」(58ページ)と組み合わせて使うと、オーバー(+)方向のみやアンダー(-)方向のみ補正したオートブラケットン撮影も可能です。

例) オーバー方向に0.3EVづつ補正をかけるとき。

1. ドライブモードをオートブラケットンモードにし、補正量は0.3EVに設定する。

2. カメラ背面の露出補正ボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回し、全体の露出値を0.3EV(+)方向に補正する。

3. この状態でオートブラケットン撮影をすれば、1コマ目=+0.3EV・2コマ目=±0EV・3コマ目=-0.3EVの補正がされます。



2) 多重露出撮影の使い方

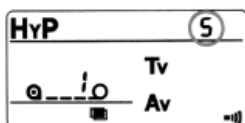
フィルムの同じコマに重ねて撮影できますので、アイデア次第で面白いトリック写真などを作ることができます。

1. モードダイヤルを「DRIVE」に合わせ、ドライブモードを多重露出 に変更します。(61ページ参照)

2. モードセットボタンを押したまま、Avダイレクトダイヤルを回して、多重露出の回数(1コマの中に写し込む回数)を決めます。

* 1回の多重露出で設定できる写し込み回数は、2~9回です。

3. 図のように、設定した写し込み回数が表示パネルに出ます。シャッターボタンを押して撮影する度に、この表示は減算されます。

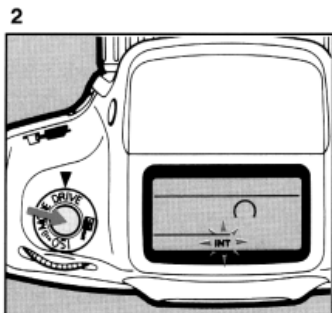
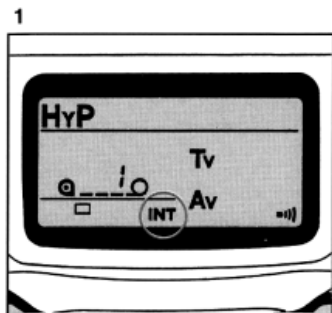


* 多重露出の途中は、表示パネルの が点滅してお知らせします。

* 多重露出撮影を途中で解除したいときは、他のドライブモードに変更するか、電源スイッチを か にしてください。なお、電源スイッチで解除した場合は、電源スイッチを に戻したとき、1コマ撮影モード になります。

* 多重露出では、背景が黒いもの(夜景など)に人物などをストロボ撮影で重ねると比較的良好な結果を得ることができます。

* 撮影終了後は多重露出の回数2に戻り、ドライブモードは1コマ撮影 になります。



3) インターバル撮影の使い方

撮影開始までの時間・撮影間隔時間・撮影枚数を設定し、自動撮影をすることができます。

設定方法

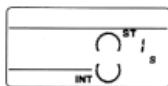
1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせ、ドライブモードをインターバル **INT** に変更します。(61ページ参照)
2. モードセットボタンを約2秒間押したままにして、表示パネルの **INT** を点滅させて、モードセットボタンから指を離します。

3. 図のようにTvダイレクトダイヤルを回して、変更する各設定項目を選択します。各設定項目については次ページをご覧ください。

※各設定が終了したら、モードセットボタンを押して撮影モードに戻してください。

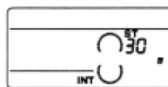
① 撮影開始までの時間の設定

1. Tvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **ST** を表示させます。



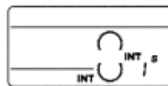
2. Avダイレクトダイヤルを回して、撮影開始までの時間を設定します。

※時間の設定中は時間の単位 (s = 秒, m = 分, h = 時) が点滅します。



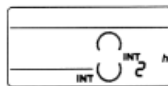
② 撮影間隔時間の設定

1. Tvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **INT** を2つ表示させます。



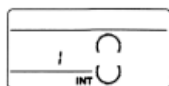
2. Avダイレクトダイヤルを回して、撮影間隔時間を設定します。

※時間の設定中は時間の単位 (s = 秒, m = 分, h = 時) が点滅します。



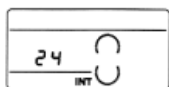
③ 撮影枚数の設定

1. Tvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに撮影枚数を表示させます。



2. Avダイレクトダイヤルを回して、撮影枚数を設定します。

※設定が終了後、モードセットボタンを押して、設定変更モードを解除してください。



設定の内容について

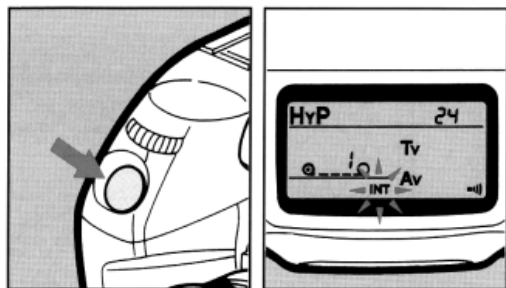
(表示例: 10s = 10秒, 1m = 1分, 1h = 1時間)

① 撮影開始までの時間および② 撮影間隔時間

1秒～24時間まで設定可能: {1s～10s(1秒刻み)・10s～1m(10秒刻み)・1m～10m(1分刻み)・10m～1h(10分刻み)・1h～24h(1時間刻み)}

③ 撮影枚数の設定

1コマ～36コマまで設定可能: {1コマ刻み}



インターバル撮影の開始

三脚などにカメラを固定してシャッターボタンを押し切ると、設定した時間に従ってインターバル撮影が開始されます。

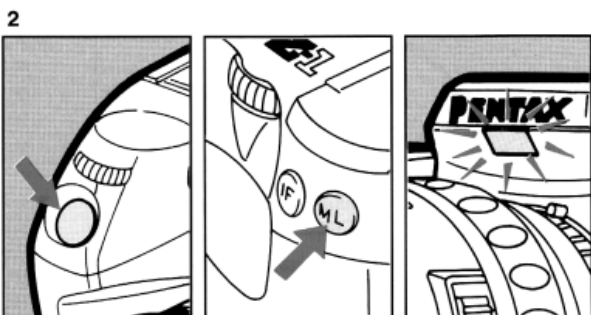
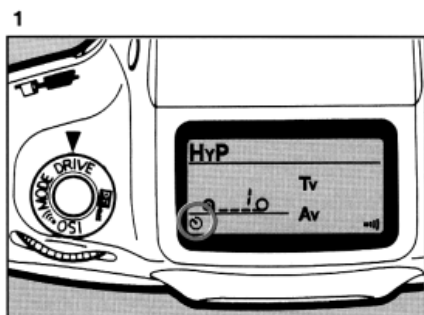
- * ピントは1コマ目でフォーカスロックされますが、測光は毎回行なわれます。
- * インターバル撮影途中でも、シャッターボタンを押すと、通常通りに撮影できます。
- * インターバル撮影中は、表示パネルの「INT」が点滅してお知らせします。
- * インターバル撮影が終了すると、インターバル撮影モードは解除され、ドライブモードは1コマ撮影□になります。
- * インターバル撮影を中断するときは、ドライブモードを他のモードにするか、電源スイッチを○か

■にします。

- * インターバル撮影中にモードセットボタンを押すと、押し続けている間はインターバルタイマーが止まります。なお、モードダイヤルが「DRIVE」になっているときに2秒以上押し続けていると、インターバルの設定状態になり、設定を終了すると新しい設定に従ってインターバル撮影を再開します。
- * インターバル撮影の時間設定は、電池を入れ替えるまで前回の設定内容を保持しています。新たにインターバル撮影をするときは、各値を設定し直してください。
- * 設定した撮影枚数より先にフィルムが終了した場合、自動的にフィルムを巻き戻します。(□設定で「自動巻き戻しする」になっている場合。)
- * インターバル撮影時は、ファインダーからの逆入光による露出の変化に注意してください。ファインダーから目を離して撮影する場合は、付属のファインダーキャップをご利用ください。

応用的な使い方

67



4) セルフタイマー撮影の使い方

セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います

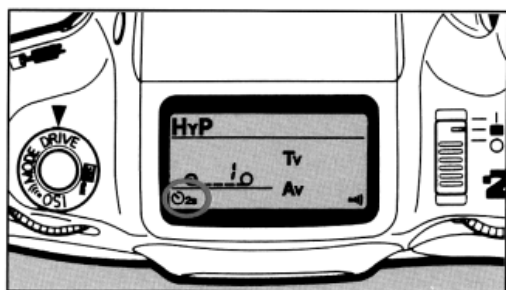
1. モードダイヤルを「DRIVE」に合わせ、ドライブモードをセルフタイマー○に変更します。(61ページ参照)
 2. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを合わせたまま、メモリーロックボタン「ML」を押します。そのままシャッターボタンを押し切ると、セルフタイマーが始動し、約12秒後にシャッターが切れます。
- * セルフタイマーの作動中は、セルフタイマーランプ

と電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ビッピッピ」になります。なお、□設定により、電子音を消すこともできます。(95ページ)

- * セルフタイマーを始動後に中止したいときは、電源スイッチを○にしてください。この場合でも、セルフタイマー撮影モードは解除されません。
- * セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光による露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時にメモリーロックボタン「ML」を使わないで撮影する場合は、付属のファインダーキャップをご利用ください。

応用的な使い方

68



5) 2秒セルフタイマー撮影の使い方

2秒セルフタイマー撮影は、近接撮影や複写などをすると、ケーブルスイッチFの代用にご利用ください。

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせ、ドライブモードを2秒セルフタイマー撮影  に変更します。(61ページ参照)
2. 通常のセルフタイマーと同じ要領で、ピント合わせとメモリーロックをしてからシャッターボタンを押し切ってセルフタイマーを始動すると、約2秒後にシャッターが切れます。

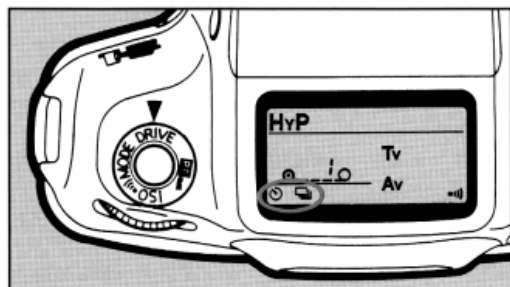
*セルフタイマーを始動すると、セルフタイマーランプの点滅と電子音(速い断続音)で知らせます。なお、 設定で電子音を消すことができます。(95ページ)

*セルフタイマーを始動後に解除したいときは、電源スイッチを  にしてください。なお、電源スイッチを入れ直すと、ドライブモードは1コマ撮影  になります。

*セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光による露出に影響を受ける場合があります。自動露出で撮影時メモリーロックボタン **ML** を使用しない場合は、付属のファインダーキャップをご利用ください。

応用的な使い方

69



6) トリプルセルフタイマー撮影の使い方

トリプルセルフタイマー撮影は、シャッターボタンを押し切った後、約12秒後に3コマ連続撮影ができます。記念写真などで、焼き増しが面倒なときやポーズを変えた3枚の写真を気軽に作ることができます。

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせ、ドライブモードをトリプルセルフタイマー撮影  に変更します。(61ページ参照)
2. 通常のセルフタイマー撮影と同じ要領でセルフタイマーを始動し、撮影します。

トリプルセルフタイマーは、次の間隔でシャッターが切れます。

・12秒後(1コマ目)→2秒後(2コマ目)→2秒後(3コマ目)

*ピントは1コマ目の撮影位置でフォーカスロックされますが、測光は毎回行なわれます。

*3コマ撮影終了後は、ドライブモードは1コマ撮影  に戻ります。

*ストロボを使用するときは、ストロボの充電完了を確認してから、セルフタイマーを始動してください。2コマ目と3コマ目は、ストロボの充電が完了してから、2秒後に撮影されます。ただし、ストロボの充電が7秒を超える場合には、セルフタイマーが解除されます。

*セルフタイマーを始動後に解除したいときは、電源スイッチを  にしてください。なお、電源スイッチを入れ直すと、ドライブモードは1コマ撮影  になります。

*セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光による露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時にメモリーロックボタン **ML** を使わないで撮影する場合は、付属のファインダーキャップをご利用ください。

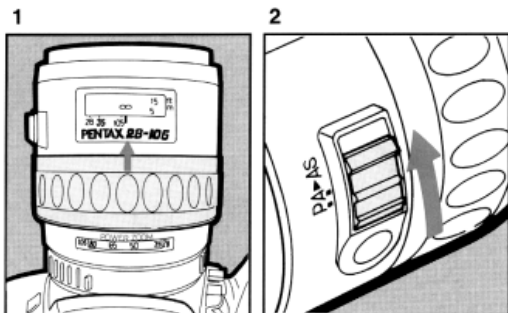
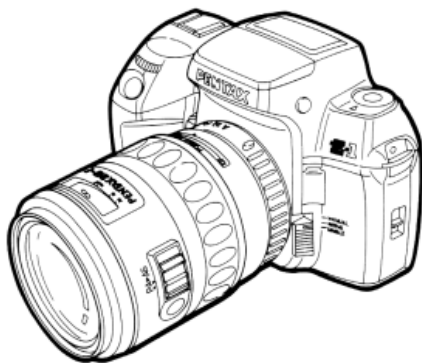
応用的な使い方

70

(7) パワーズームの拡張機能

FAズームレンズをZ-1と組み合わせると、次のオートズーム機能を使うことができます。

- ①ズームクリップモード
- ②イメージサイズ指定モード
- ③露光間ズームモード

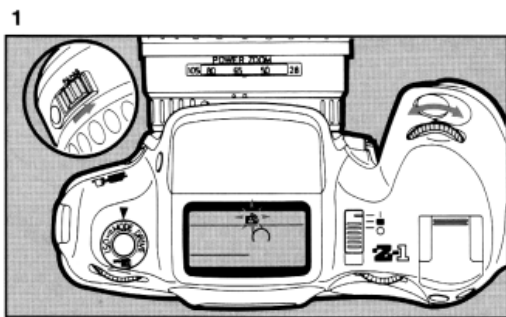


応用的な使い方

オートズーム機能を使うための準備

1. レンズのズームリングを前側に押し出すようにして、図のように**POWER ZOOM**が見える状態にします。
*工場出荷時は、この状態です。
2. レンズのオートズームスイッチを**A**（一部のレンズでは**AZ**）に合わせます。
*これで、各種オートズーム機能が使える状態になります。各機能の使い方については、それぞれのページをご覧ください。

71



①ズームクリップモードの使い方

ズームクリップモードは、カメラに焦点距離をあらかじめ記憶させておくことで、必要なときにボタン一つでその焦点距離を呼び出す機能です。

例えば、動きの激しいスポーツ写真で、予測される場面の撮影範囲（焦点距離）を記憶させておけばシャッターチャンスをつかむのに有利になります。

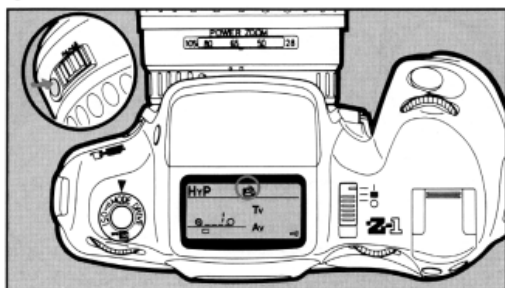
* **PF** 設定で、2箇所の焦点距離を記憶させ、ボタンを押すごとに交互に記憶した焦点距離を呼び出すこともできます。(91ページ)



1. レンズのオートズームスイッチを**AS**（一部のレンズでは**MODE**）側に押し付けたままTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに**☑**表示を点滅させてください。
*ズームクリップモードを解除するときは、オートズームスイッチを**P**（一部のレンズでは**PZ**）に戻してください。
2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを回して、好みの焦点距離に合わせます。

応用的な使い方

72

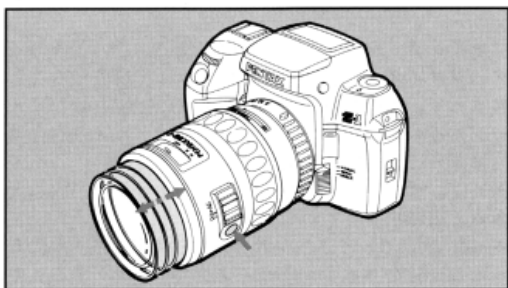


3. レンズのズームセットボタンを押すと、表示パネルの 表示が点灯になり、焦点距離が記憶されます。

* 新たに焦点距離を記憶させた場合は、前の内容は消えてしまいます。

* **PF** 設定で2箇所の焦点距離を記憶できるようにした場合(91ページ)、ここまでの1.~3.の操作をもう一度行なうと、2番目の焦点距離を記憶することができます。さらに焦点距離を記憶させると、最初に記憶させた内容の代わりに、新しい焦点距離が記憶されます。

* 電源スイッチを にしても、記憶した内容は消え



ません。なお、電池を入れ直すと記憶していた内容は消えてしまいますのでご注意ください。

* 電源スイッチが または のままレンズを外したり、レンズの交換をすると記憶している内容が消えてしまいます。記憶した内容を残したい場合は、電源スイッチを にしてください。

4. ズームセットボタンを押して、記憶した焦点距離を呼び出して撮影します。

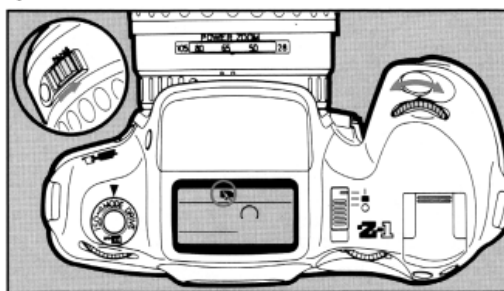
* **PF** 設定で2箇所の焦点距離を記憶できるようにした場合(91ページ)、ズームセットボタンを押すごとに、記憶した2箇所の焦点距離を交互に呼び出すことができます。

② イメージサイズ指定モードの使い方

ファインダーを覗きながら構図を決め、そのときのイメージサイズ(撮影倍率)をカメラに記憶させることによって、撮影距離が変わっても常に記憶させたイメージサイズ(撮影倍率)になるように、カメラが自動的にズーミングする機能です。

例えば、近づいたり遠ざかったりする子供を、同じ大きさで撮影することができます。

* **PF** 設定で、イメージサイズの初期状態を「常に人物の全身が写るようにカメラがズーミングする」や「常に人物の上半身が写るようにカメラがズーミングする」にすることができます(91ページ)。この場合でも、撮影者が新たにイメージサイズを記憶させることができます。なお、イメージサイズの記憶内容を変更した後も、カメラの電源スイッチを入れ直すだけで、初期状態(人物の全身あるいは、上半身)に戻すことができます。



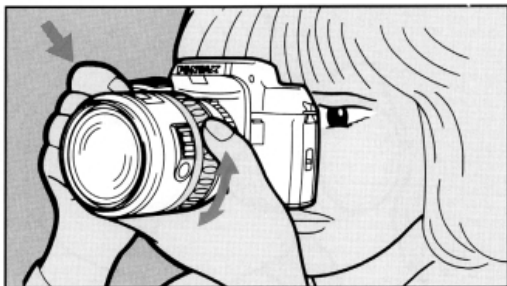
1. レンズのオートズームスイッチを **AS** (一部のレンズでは **MODE**) 側に押し付けたまま **Tv** ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに 表示を出します。

* フォーカスモードレバーが **MANUAL** になっていると、イメージサイズ指定モードは使えません。

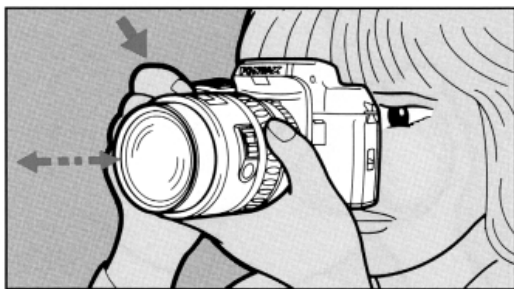
* イメージサイズ指定モードを解除するときは、オートズームスイッチを **P** (一部のレンズでは **PZ**) に戻してください。



2. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを合わせ、ファインダーの合焦表示  を点灯した状態にします。
- *このとき、前回の記憶内容に従って、自動的にズームリングされます。
3. シャッターボタンを半押ししたまま、ズームリングを操作して好みの位置までズームリングします。ズームリングの操作を終了すると、その時点のイメージサイズをカメラが記憶します。



- *ピント合わせをしたあとでズームリングをすると、多少ピントがずれてしまうことがあります。この場合は、もう一度ピント合わせをやり直してからズームリングしてください。
- *イメージサイズを記憶させるときは、カメラのフォーカスモードレバーは **SINGLE** にしておくほうが簡単にイメージ記憶の作業ができます。
- *被写体が動体でカメラのフォーカスレバーを **SERVO** にして使う場合、ズームセットボタンを押したままシャッターボタン半押しでピントを合わせ続けて、被写体の大きさが好みのサイズになったところで、ズームセットボタンから指を離すと簡単にイメージサイズが記憶できます。



4. シャッターボタンを半押しすると、撮影距離が変わっても被写体の大きさが一定になるように自動的にズームリングします。ズームリングが終了してからシャッターボタンを押し切って撮影してください。
- *ズームリング中にシャッターボタンを押し切ってしまうと、指定したイメージサイズになりません。シャッターボタンは、ズームリングが終了してから押し切ってください。
 - *撮影距離が近すぎたり遠すぎたりすると、ズームレンズの焦点距離範囲を超えてしまい、指定したイメージサイズになりません。また、他のレンズに交換した場合も、前のレンズで記憶したイメージサイズ

で制御されますので、指定したイメージサイズにならない場合があります。

- *イメージサイズ指定モードのときにフォーカスモードレバーを **MANUAL** に切り替えると、ズームクリップモードに切り替わります。
- *電源スイッチを  にしても、記憶されている内容は消えません。
- *電源スイッチが  または  のままでレンズを外したり、レンズ交換をすると記憶している内容が消えてしまいますので、記憶した内容を残したい場合は、電源スイッチを  にした状態で行なってください。
- *新たにイメージサイズを記憶させると、前の記憶内容は消えてしまいます。
- *イメージサイズを決めるときには、焦点距離を使用するズームレンズの中間付近にすると、利用範囲が広がり使い易くなります。例えば、28~105mmレンズでしたら焦点距離を65mm付近にすると便利です。
- *電池を抜くと記憶している内容は消えてしまいますので、ご注意ください。
- *被写体が動体で、フォーカスモードレバーが **SERVO** の場合、イメージサイズが一定にならないことがあります。

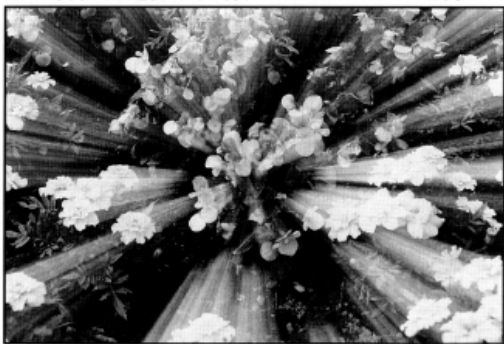
③露光間ズームモードの使い方

露光間ズームは、シャッターを開いて露光を行なっている間に広角側から望遠側にオートズミングすることによって、被写体映像の芯をとらえながら、輪郭を放射方向に流した写真を作ることができます。

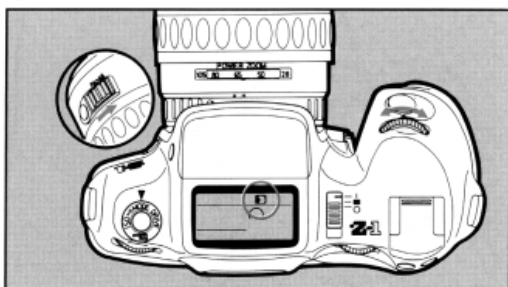
* **PF** 設定で、望遠側から広角側にオートズミングの方向を変えることができます。(92ページ)

* 露光間ズームモードでは、ストロボを後幕シンクロにセットしても、先幕シンクロで制御されます。

この写真は、望遠側から広角側へオートズームさせています。



1



応用的な使い方

1. レンズのオートズームスイッチを **AS** (一部のレンズでは **MODE**) 側に押し付けたまま Tv ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **[D]** 表示を出してください。

* 露光間ズームモードを解除するときは、オートズームスイッチを **P** (一部のレンズでは **PZ**) に戻してください。

77

2

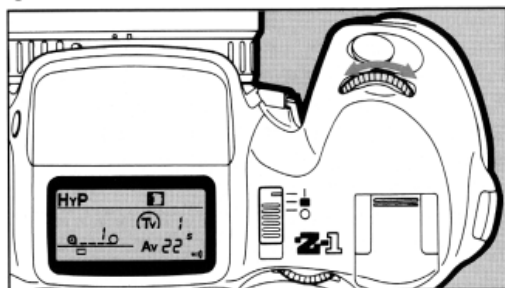


応用的な使い方

2. ズームリングを操作し、撮影意図に合うような広角側の焦点距離にしてください。

* **PF** 設定でオートズミングの方向を「望遠から広角」に設定してある場合は、焦点距離を望遠側に合わせます。

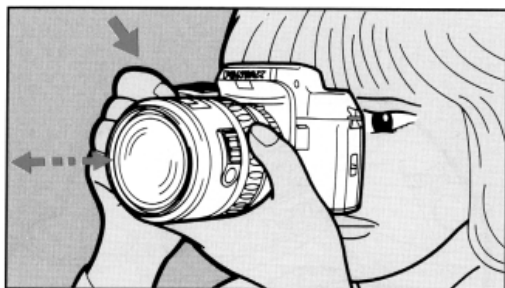
3



3. 露光間ズームの効果を出すために、なるべくシャッター速度が遅くなるように露出を決めてください。

* ハイパープログラム自動露出とプログラム自動露出では、できるだけシャッター速度が遅くなるように露出が決定されます。

* シャッターを切ってから、オートズミングが行なわれるタイミングは、そのときのシャッター速度の半分の時間が経過するまではズミングしないで、後半(シャッター速度の残り時間)でオートズミングを行ないます。例えば、シャッター速度を1秒に設定すると、シャッターを切ってから0.5秒間はズミングしないで、後半の0.5秒間だけオートズームを行ないます。



4. シャッターボタンを押し切ると、そのときのシャッター速度に応じて露光間ズームを行ない撮影します。

* シャッター速度が速いと、ズームする時間が短くなり、ほとんどオートズームされないので、露光間ズームの効果が得られません。例えば、28~105mm レンズの場合に28mmから105mmまでオートズームするのに約1秒かかりますので、シャッター速度を2秒以上に設定しないと28mm~105mmまでのズームはされません。なお、シャッター速度を遅くしすぎると、ズーム終了後もシャッターが開いているため、被写体の芯が2つできることになります。

* ズーム比をあまり大きくすると、全体にまぼろしの悪い写真になりやすいのでご注意ください。

* 露光間ズームモードでは、パワーズームの最大速度でズームを行ないます。

* 露光間ズームは低速シャッターで撮影しますので、三脚などの利用をお勧めします。

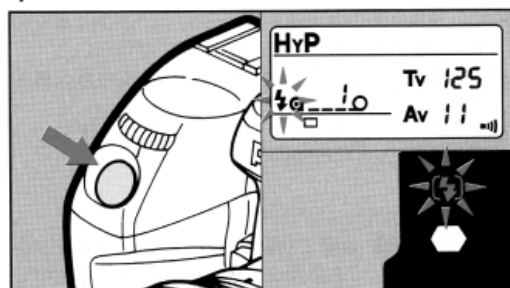
マニュアル露光間ズームについて

Z-1は、**[PF]**設定で「露光中のパワーズームが可能」に設定してある場合(92ページ)は、露光中でも、撮影者が自由にパワーズームで焦点距離を変えることができます。ズーム速度やタイミングを自分で調整できますので、工夫次第で面白い写真を作れるでしょう。

* マニュアル露光間ズームを行なうときは、オートズームスイッチを**[P]**(一部のレンズでは**[PZ]**)に戻してください。(通常のパワーズームで使う状態にします。)

(8)内蔵ストロボを使います

1

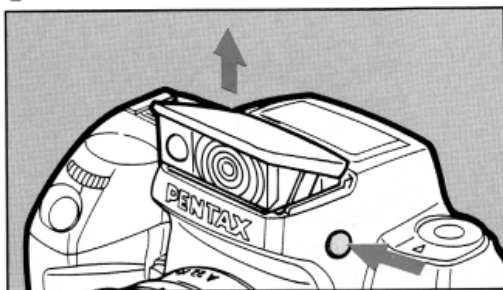


Z-1の内蔵ストロボは、周りが暗いときや、逆光のときなどに、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが組み合わされますので、簡単にストロボ撮影ができます。

1. ハイプログラム自動露出にし、シャッターボタンを半押しします。

* 周りが暗いときや逆光のときは、表示パネルの**[⚡]**とファインダー内の**[FV]**が点滅して、ストロボの使用を勧めます。

2



2. ストロボスイッチを押して、ストロボを上へ飛び出させます。

* 充電が自動的に始まり、充電が終わると表示パネルに**[⚡]**が表示されます。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にも**[FV]**が表示されます。

* カメラのフォーカスモードレバーが**[SERVO]**になっている場合、シャッターボタンを押していると、ストロボは充電されません。フォーカスモードレバーが**[SINGLE]**の場合は、ピント合わせが終了してフォーカスロックされるまでストロボは充電されません。

* **[PF]**設定で、ストロボ充電中のレリーズを禁止することができます。(89ページ参照)



3. シャッターボタンを押し切ってストロボ撮影をします。

* シャッター速度は、1/250秒～1/15秒まで変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。(FAおよびFレンズのみ)

* 撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押して収納してください。

シャッター優先自動露出を使うとき

速い速度の被写体の動きを止めたいときなどに、1/250秒以下のシャッター速度を自由に調節してストロボ撮影ができます。

シャッター優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

* ハイパープログラム自動露出からTvダイレクトダイヤルでシャッター優先自動露出にしたとき、設定可能なシャッター速度範囲は1/250秒から絞りが最小絞りになるときのシャッター速度までです。

* **PF** 設定で、自動シフトしないにすると、シャッター速度は1/250秒～30秒まで設定できます。

応用的な使い方

81

絞り優先自動露出、マニュアル露出を使うとき

ピントの合う範囲(被写界深度)を変えて撮影したいときなどに、絞りを自由に調節してストロボ撮影ができます。

絞り優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

* シャッター速度は、1/250秒～1/15秒まで変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。(FAおよびFレンズのみ)

* ハイパープログラム自動露出からAvダイレクトダイヤルで絞り優先自動露出にしたとき、設定可能な絞り値は、シャッター速度が変化できる範囲で、ご使用レンズの焦点距離によっても異なります。

* **PF** 設定で、自動シフトしないにすると絞りは開放から最小絞りまで設定できます。

使用絞りから撮影距離を計算します

遠距離側の目安 $GN \div \text{使用絞り}$
 近距離側の目安 遠距離側目安 $\div 4.9$
 ただし、0.7m以下の距離では使えません。

* GN = ガイドナンバー

撮影距離から使用絞りを計算します

$GN \div \text{撮影距離} = \text{使用絞り}$

計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方(2.8)にします。

なお、GNは使用するフィルム感度(ISO)により下の表のようになります。

ISO25 → GN 7	ISO200 → GN 20
ISO50 → GN 10	ISO400 → GN 28
ISO100 → GN 14	

ここでISO100のフィルムを絞りF3.5で使うときの例をあげます。

ストロボの撮影距離範囲を計算します。

$$GN 14 \div F 3.5 = 4$$

$$4 \div 4.9 = \text{約} 0.8$$

従って、約0.8mから4mの範囲でストロボが使えます。

日中シンクロについて

ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出では、シャッター速度、あるいは絞り値が周りの明るさによって変化しますのでそのままストロボ撮影をするだけで簡単に日中シンクロができます。

低速シンクロについて

1. ハイパープログラム自動露出の状態、Tvダイレクトダイヤルを回してシャッター優先自動露出にします。

*すでにシャッター優先自動露出になっているときは、そのまま結構ですが、表示パネルとファインダー内の絞り値が点滅をしていると適正露出が得られませんので、点滅をなくしてください。

2. 好みのシャッター速度を選びます。

3. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。

4. 撮影します。

*低速シンクロの場合は、カメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。

*ハイパーマニュアル露出でも低速シンクロが行えます。

AFスポットビームについて

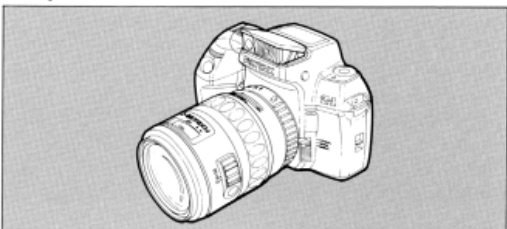
暗いところではオートフォーカスの精度が低下しますが、こんなとき内蔵ストロボを飛び出させてシャッターボタンを半押しすると、赤色光(AFスポットビーム)を自動的に投光して約1~4mの範囲で快適にオートフォーカスを作動させることができます。

*AFスポットビームは、KAF2およびKAFマウントレンズおよびAFアダプター1.7×を使用して、AFシングルのときのみ働きます。

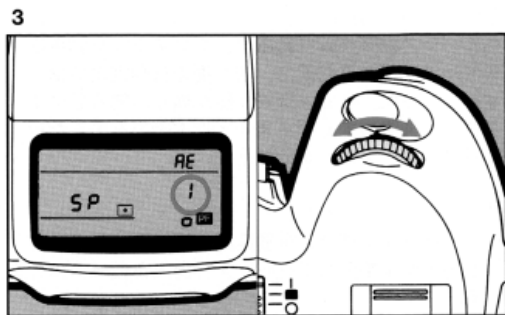
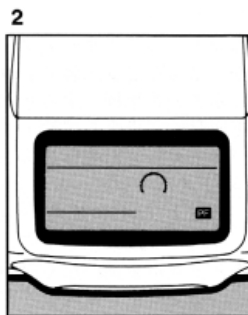
*ストロボを使いたくないときは、ピントが合ったところでフォーカスロックをしたまま、内蔵ストロボを収納してください。

*AF330FTZなど、外付けストロボのAFスポットビームを使用するときは、内蔵ストロボのAFスポットビームは動きません。

*明るいところでは、AFスポットビームは作動しません。



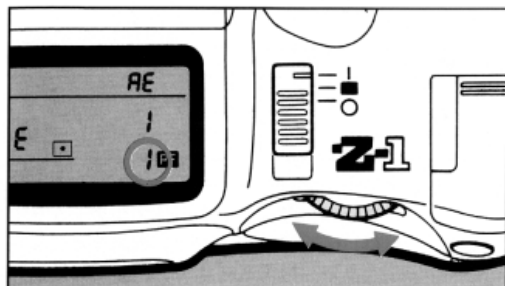
(9) PF ペンタックスファンクション



Z-1には、使用目的に合わせてユーザー自身がカメラの機能を選択できる、18項目からなるペンタックスファンクション機能があります。

ペンタックスファンクションの設定方法

1. モードダイヤルを **PF** に合わせます。
2. モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを回し、図のように **⊙ --- ⊙** 表示を消して、モードセットボタンから指を離してください。
3. Tvダイレクトダイヤルを回して、設定したいファンクションナンバーを選択してください。

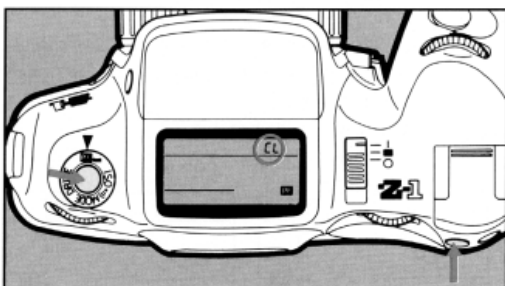


4. Avダイレクトダイヤルを回して、ファンクションの内容を選択してください。

* ファンクションの内容は、数字の「0」「1」を選択する方式になっていますが、ファンクションナンバーによって、3択あるいは4択になっているものがあります。詳しくは、各ファンクションナンバーの説明をご覧ください。

* 工場出荷時は、ファンクション内容がすべて初期値(0)になっています。

* **PF** 設定後、モードダイヤルを回して、**PF**以外に合わせてください。



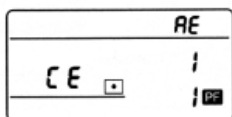
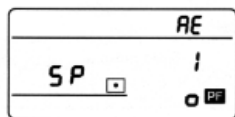
※ **PF**ペンタックスファンクションを初期状態に戻します。

モードダイヤルを **PF** にして、モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルで **Q---** 表示を消します。モードセットボタンを押したまま **IF** ボタンを約2秒間押し続けると、表示パネルに **CL** が表示されて **PF** の設定が初期状態に戻ります。

① スポット測光・中央重点測光の選択

内容：8分割測光から測光モード切り替えボタンで、測光モードを切り替えたときのカメラの測光モードを選択します。初期値はスポット測光になっています。

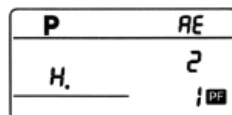
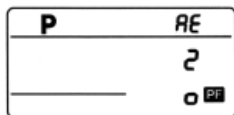
選択肢：**0**=スポット測光にする。
1=中央重点測光にする。



② プログラムラインの選択

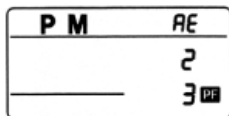
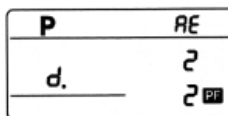
内容：プログラム・ハイパープログラム自動露出時のプログラムラインを選択します。初期値はノーマルプログラムラインになっています。

選択肢：**0**=ノーマルプログラムライン
1=高速優先プログラムライン



2=深度優先プログラムライン

3=MTF優先プログラムライン



備考：* ノーマルプログラムラインは基本となるプログラム自動露出です。各プログラムラインは116ページのプログラム線図を参照してください。(MTFプログラムラインはレンズによって線図が異なり、使用するFAレンズ内にその情報が記録されています。)

* 高速優先プログラムラインはなるべく速いシャッター速度が切れるよう高速シャッターを優先するプログラム自動露出です。

* 深度優先プログラムはなるべく絞りを絞り込んで撮影できるように小絞りを優先したプログラム自動露出です。

* MTF優先プログラムラインはFAレンズと組み合わせたときに有効で、使用するレンズの性能が最も良くなる絞り値を優先するプログラム自動露出です。

* 電源スイッチが **■** では、常にノーマルプログラムラインになります。

③露出補正の設定ステップの選択

内 容：露出補正の設定ステップを0.3EVにするか0.5EVにするかを選択します。初期値は0.3EVステップです。

選択肢：0=0.3EVステップにする。
1=0.5EVステップにする。

AE		
0.3	3	PF

AE		
0.5	3	PF

④シャッター速度設定ステップの選択

内 容：シャッター速度のステップを1EVにするか、0.5EVにするかを選択します。初期値は1EVステップです。

選択肢：0=1EVステップにする。
1=0.5EVステップにする。

AE		
1	Tv 4	PF

AE		
0.5	Tv 4	PF

⑤ハイパープログラム時にTvおよびAvの自動シフトの選択

内 容：ハイパープログラム自動露出で使用时、ハイパー機能で設定したシャッター速度または絞り値が連動範囲を超えたときにTv（シャッター速度）あるいはAv（絞り値）を自動的にシフトして適正露出を得るようにするか、シフトしないで警告表示を出す（この場合は適正露出にはなりません）かを選択します。初期値は「自動シフトする」になっています。

選択肢：0=TvおよびAvを自動的にシフトする。
1=自動シフトをしないで、警告表示をする。

HyP AE		
AS	Tv 5	PF
	Av	PF

HyP AE		
	Tv 5	PF
	Av	PF

⑥ハイパーマニュアル時にIFボタンを押した場合のTv・Av変化の選択

内 容：レンズ絞りをA位置にしてハイパーマニュアルで使用时、IFボタンを押して適正露出を得るときの機能を選択します。初期値はプログラムライン上になっています。

選択肢：0=プログラムライン上の適正露出値を得ます。

1=Av（絞り値）を固定して、Tv（シャッター速度）をシフトして適正露出を得ます。

2=Tv（シャッター速度）を固定して、Av（絞り値）をシフトして適正露出を得ます。

Hy	M	AE
P		6
		PF

Hy	M	AE
E 5		6
		PF

Hy	M	AE
E E		6
		2 PF

⑦ハイパーマニュアル時のTv・Avセット機能の選択

内 容：ハイパーマニュアルで使用时、IFボタンを押して適正露出を得る際にTv（シャッター速度）およびAv（絞り）の値を、ステップごとにシフトするか、無段階にシフトするかを選択します。初期値はステップごとにシフトするようになっています。

選択肢：0=ステップごとにTv値およびAv値をシフトします。

1=無段階にTv値およびAv値をシフトします。

Hy	M	AE
S.		7
		PF

Hy	M	AE
P.		7
		PF

⑧フィルムローディング時のフィルム感度設定の選択

内 容：フィルムを入れて、ローディングを行なったときに、フィルムの感度（ISO）設定をDXによる自動読み込みを優先するか、ユーザーによるマニュアル設定を優先するかを選択します。初期値は「DXによる自動読み込みを優先」になっています。

選択肢：0=Dxによるフィルム感度(ISO)自動設定を優先する。

1=ユーザー設定によるフィルム感度(ISO)を優先する。

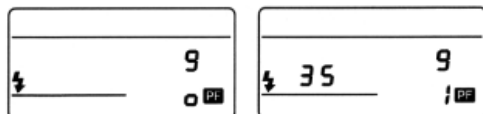


⑨内蔵ストロボの発光選択

内容：内蔵ストロボの不適切レンズを使用した場合に、警告表示のみで発光はさせるか、ストロボの発光を禁止するかを選択します。初期値は「警告表示のみで発光する」になっています。

選択肢：0=発光させる。

1=発光を禁止する。



⑩内蔵ストロボ未充電時のリリース優先順位の選択

内容：内蔵ストロボの充電する前にシャッターボタンを押して切っても、シャッターが切れる(リリースできる)ようにするか、内蔵ストロボの充電が完了するまでシャッターが切れない(リリースロック)ようにするかを選択します。初期値は「リリースを可能にする」になっています。

選択肢：0=内蔵ストロボ充電中でもリリースを可能にする。

1=内蔵ストロボが充電するまでリリースを禁止する。



※ペンタックスファクションの⑨と⑩の両方を1に設定した場合、内蔵ストロボ不適切レンズ使用時に内蔵ストロボを使おうとすると、シャッターが切れません。(リリースロック)

⑪フィルム巻き戻し完了時状態の選択

内容：フィルム巻き戻し完了時に、フィルムのリーダー(先端)部分をパトローネに巻き込むか、若干残すかを選択します。初期値は「完全に巻き込む」になっています。

選択肢：0=フィルムを完全にパトローネへ巻き込む。

1=フィルムのリーダー部分を若干残す。



⑫フィルム終了時の機能選択

内容：フィルムの最後まで撮影したときに、自動的に巻き戻しを行なうか、途中巻き戻しと同様に手動で巻き戻しを開始するかを選択します。初期値は「自動巻き戻しする」になっています。

選択肢：0=自動的に巻き戻しを開始する。

1=手動で巻き戻しを開始する。



備考：1に設定した場合、フィルムの最後まで撮り終わると表示パネルの枚数表示とフィルム給送マークが点滅状態になり、フィルムの巻き戻し操作以外ではできなくなります。フィルムを巻き戻すには「途中巻き戻し」(21ページ)と同じ操作をします。

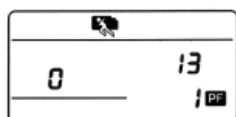
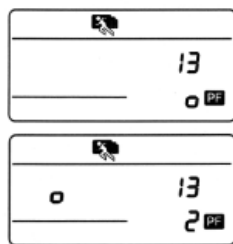
⑬ イメージサイズ指定モードの像倍率の初期データの選択

内 容：イメージサイズ指定モードで、新たにイメージサイズ（撮影倍率）を記憶させる前の初期倍率データを選択します。初期値は「前回のデータを優先する」になっています。

選択肢： **0** = 前に記憶したイメージサイズを初期倍率に設定する。

1 = 人物撮影時に、全身が画面内に入るよう初期倍率を設定する。

2 = 人物撮影時に、上半身が画面内に入るよう初期倍率を設定する。



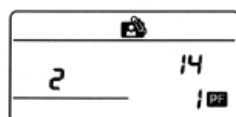
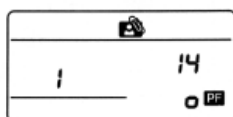
* **0** を選択した場合、電池を入れ替えると前回のデータが失われ、初期倍率データは **2** の設定と同様「上半身が画面内に入る倍率」になります。

⑭ ズームクリップモードの記憶箇所の選択

内 容：ズームクリップモードで、焦点距離の記憶する箇所を1つにするか、2つにするかを選択します。初期値は「記憶は1箇所」になっています。

選択肢： **0** = 焦点距離の記憶は1箇所にする。

1 = 焦点距離の記憶を2箇所にする。



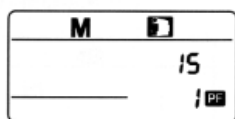
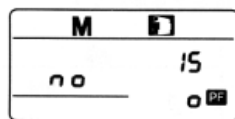
備 考：* 設定した初期倍率データが有効になるのは、電源スイッチを入れ直したときです。

⑮ 露光中のパワーズーム作動の選択

内 容：シャッターボタンを押し切って、露光中（シャッターが開いている間）にズームリングを回してパワーズームを作動できるようにするか、露光中はパワーズームの作動をさせないかを選択します。初期値は「パワーズームの作動をさせない」になっています。

選択肢： **0** = 露光中はズームリングによるパワーズームの作動を禁止する。

1 = 露光中でもズームリングによるパワーズームの作動を許可する。



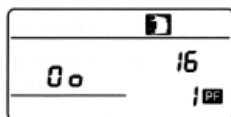
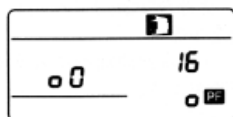
備 考： **1** を選択した場合、露光中にズームリングによってパワーズームを作動させる場合は、レンズのオートズームスイッチを **P** にしてください。

⑯ 露光間ズームモードのズーミング方向の選択

内 容：露光間ズームモードを使用時に、広角側から望遠側にオートズームをするのか、望遠側から広角側にオートズームをするかを選択します。初期値は「広角側から望遠側にオートズームする」になっています。

選択肢： **0** = 広角側から望遠側にオートズームする。

1 = 望遠側から広角側にオートズームする。

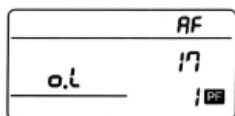
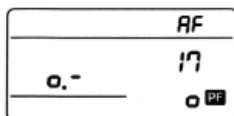


⑪ ML ボタンの機能選択

内容：フォーカスモードレバーが「**SINGLE**」のとき、**ML** ボタンを押してオートフォーカス作動（合焦後、フォーカスロック）させてから露出値を固定するか、露出値のみ固定するかを選択します。初期値は「露出値のみ固定する」になっています。

選択肢：0 = **ML** ボタンを押すと露出値のみ固定する。

1 = **ML** ボタンを押すとオートフォーカスが作動し、フォーカスロックすると共に露出値を固定する。

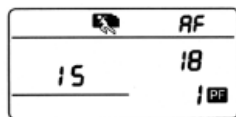
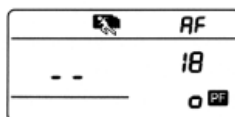


⑫ イメージサイズ指定モード時のリリース優先の選択

内容：フォーカスモードレバーを「**SINGLE**」でイメージサイズ指定モードを使ったときに、シャッターボタンを押し切っている場合、ピントが合ってからイメージサイズが一定になるのを待たずにシャッターが切れるようにするか、ズーミングが終わってイメージサイズが一定になるまでシャッターが切れないようにするかを選択します。初期値は「シャッターが切れる」になっています。

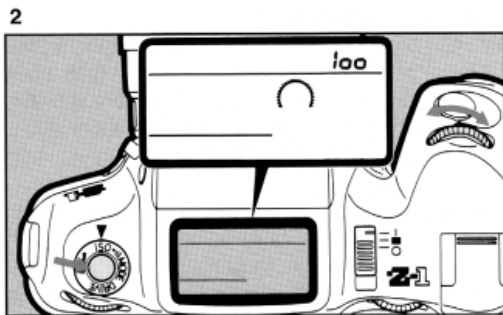
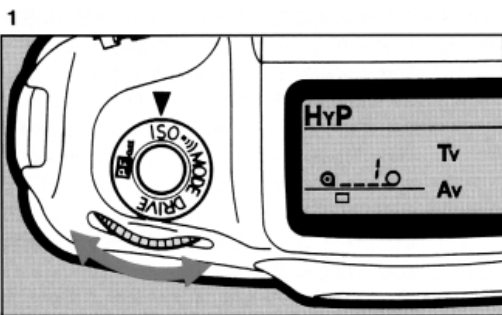
選択肢：0 = ピントが合えば、イメージサイズが一定になるのを待たずにシャッターが切れる。

1 = イメージサイズが一定になるのを待ってシャッターが切れる。



応用的な使い方

⑩ フィルム感度(ISO)のマニュアル設定



応用的な使い方

Z-1 は、フィルムローディング時、フィルムのDXコードにより自動的にフィルム感度を読み取ることができますが、撮影者が任意に感度設定を変えることができます。

また、DXコードの付いていないフィルムを使う場合はマニュアルでISO感度を設定してください。

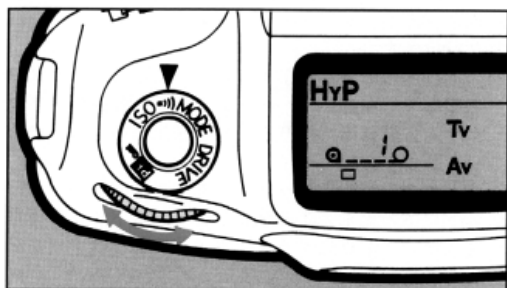
* **PF** 設定により、ISO感度のマニュアル設定をDXコードによる自動読み取りよりも優先させることができます。

変更方法

1. モードダイヤルを **ISO** に合わせます。
 2. モードセットボタンを押したまま、Tvダイレクトダイヤルを回して希望のISO感度に合わせます。
- * モードダイヤルを **ISO** に合わせて、モードセットボタンを押すと、現在設定されているフィルム感度 (ISO) が表示パネルに表示されます。
- * DXコードで読み取ったフィルム感度とマニュアル設定したフィルム感度が異なった場合、表示パネルに **ISO** が出て知らせます。
- * DXコードの付いていないフィルムを使用したときは、前回設定されたISO感度になります。

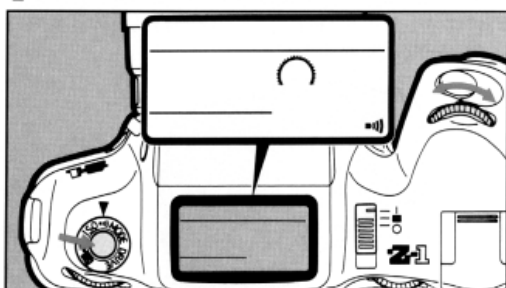
(11)電子音を消すには

1



Z-1は、ピントが合ったときやセルフタイマー作動時に電子音が鳴りますが、撮影時に電子音を鳴らしたくない場合には電子音を消すことができます。

2



変更方法

1. モードダイヤルを **[M]** に合わせます。
 2. モードセットボタンを押したまま、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルの **[M]** を消します。
- * 電子音を出す場合には、同様の操作で表示パネルに **[M]** を出してください。

応用的な使い方

95

(12)外付けストロボの使い方

カメラの内蔵ストロボではパワーが足りないときは、外付けストロボを利用してください。(結婚披露宴やパーティーなどで便利です)



応用的な使い方

TTLオートモード付きストロボを使います

1. カメラのホットシューカバーを外し、ストロボを取り付けます。
 2. ストロボのモードをTTLオートにします。カメラの撮影モードはハイプログラム自動露出、プログラム自動露出、絞り優先自動露出のいずれかにセットします。
 3. ストロボの電源スイッチを入れます。
 4. ストロボの充電完了を確認します。ストロボの充電完了ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内の **[S]** が点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
- * 充電が完了すると、シャッター速度は周りの明るさによって、1/250秒～1/15秒に切り替わります。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。(FAおよびFレンズのみ)
5. ピントを合わせて撮影します。
- * カメラの露出モードがシャッター優先自動露出、ハイパーマニュアル露出のときは、低速シンクロ撮影(83ページ参照)が可能です。

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D	TYPE E
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる。	○	○	○	○	○
ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる。	○	○	○	○	注1
ファインダー内でオートチェックができる。		○	○		
TTLオートストロボ撮影ができる。	○	○	○	○	
ハイパーマニュアル露出、シャッター優先自動露出では低速シンクロができる。	○	○	○	○	○
AFスポットビームが使える。	○	○	○		
後幕シンクロ撮影ができる。(注2)	注3	○	○		
光量比制御モードで撮影できる。		○			

TYPE A：内蔵ストロボ

TYPE B：AF330FTZ

TYPE C：AF400FTZ、AF240FT

TYPE D：AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C

TYPE E：AF200SA、AF200S、AF160、AF140

注1：AF200SAのみ自動セット可能。

注2：1/125秒以下になります。

注3：TYPE BまたはCストロボと組み合わせて後幕シンクロ可能。

その他のストロボを使用した場合

* 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

* 旧タイプの「AF140」や「AF160」および「AF200S」を使うときは、ストロボの計算盤で求めた絞りに合わせて撮影してください。

AF330FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。
- 光量比制御モードがご利用できます。(99ページ参照)
- カメラがハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF240FT、AF400FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- カメラがハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF200T、AF280T、AF400T

- TTLオートモードで使用すると、周りの明るさによってシャッター速度が変化します(1/250秒から1/60秒)ので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。
- 外光オート(赤・緑・黄位置)で使用すると、絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1/250秒~1/60秒に変化します。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄			F11

(ISO 100の場合)

ストロボ撮影(使用上)の注意

- 1) TYPE Dのストロボで、MS(マニュアルシンクロ)、M(マニュアル)を使うときは、ストロボの計算盤で求めた絞りでご使用ください。
- 2) 内蔵ストロボとペンタックス専用の外付けストロボを組み合わせると、充電完了した外付けストロボの機能が優先されます。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターを切ってください。

光量比制御シンクロ撮影

AF330FTZとカメラの内蔵ストロボを組み合わせることで、二つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影(光量比制御シンクロ撮影)ができます。光量の比率は、内蔵ストロボが1に対してAF330FTZは2になります。

1. AF330FTZのシンクロモードを光量比制御モードにします。

2. 両方のストロボの充電完了を確認してから撮影してください。

* AF330FTZをカメラから離してご使用になると、光量比制御の効果が大きくなります。この場合には、別売りアクセサリーの「ホットシューアダプターF」(2個)と「延長コードF5P」をご利用ください。なお、ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となるので、使用しないでください。

* 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度が1/60秒になりますが、ハイパーマニュアル露出、シャッター優先自動露出、ハイパープログラム自動露出からのシャッター優先自動露出では、1/60秒以下のシャッター速度も設定できます。

応用的な使い
方

99

(13)アクセサリーについて

1) 専用アクセサリー(別売)

Z-1には、各種専用アクセサリーが用意されています。詳しくは、カタログ等をご覧ください。

● ケーブルスイッチF

Z-1、Z-10、SFX_N、SF7等に使えるリリースコード。

● マグニファイヤーF_B

ファインダー中央部を拡大して見る接写用アクセサリー。

● オートストロボAF330FTZ

ガイドナンバー33のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

● オートストロボAF240FT、AF400FTZ

AF240FTZはガイドナンバー24、AF400FTZはガイドナンバー40のAFスポットビーム内蔵ズームストロボ。先幕、後幕シンクロ撮影などが可能。

● ホットシューアダプターF、延長コードF5P

AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。

● AFアダプター1.7X

F2.8より明るいK_A・Kマウントレンズでオートフォーカス撮影するためのアダプター。

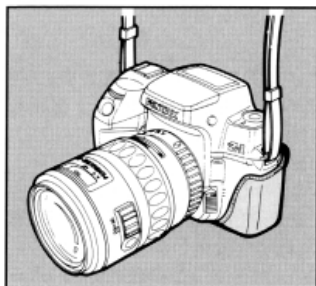
● マクロストロボAF140C

ガイドナンバー14の接写用ストロボ。

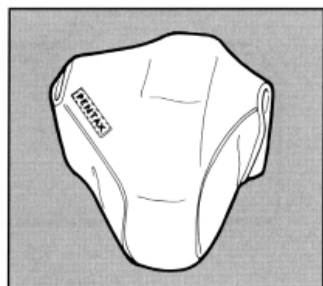
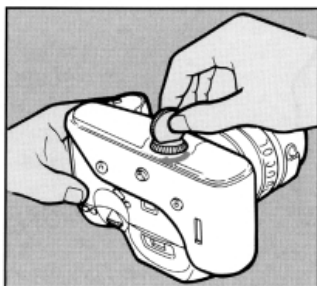
アクセサリーの注意

- 「オートベローズA」はダブルリリースが使用できません。また、縦位置撮影のときは、カメラのグリップ側を上にしてください。
- 「PENTAX-F・300mm F4.5 ED [IF]」レンズの三脚座を使用してカメラを縦位置にすると、カメラのグリップ側を下にするとレンズの三脚取り付け座がカメラに当たることがあるので、縦位置にするときにはグリップ側を上にしてください。
- 「645レンズ用アダプターK」をボディに着脱する際、アダプターの固定ネジの位置によってはボディに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、固定ネジの位置を変えてから行ってください。
- レフレックス1000mm F11や2000mm F13.5レンズをボディに着脱する際、レンズの縦横変換ロックネジの位置によってはボディに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、ロックネジの位置を変えてから行ってください。
- 微動装置III型やコピースタンドのカメラ取り付け台には、水平出し用の突起部がありますが、Z-1では形状が合わず直接当てるとボディに傷が付くことがありますので使用しないでください。

1



2



2) ソフトケース

ソフトケース（別売）は、バックケース（底ぶた）とフロントケース（前ぶた）からできています。

1. フロントケースを開いて、カメラをバックケースに入れます。
2. ケース下部の取り付けネジを、コインなどを使用して締め付けて固定します。

ソフトケースには、S、M、Lの3種類があります。

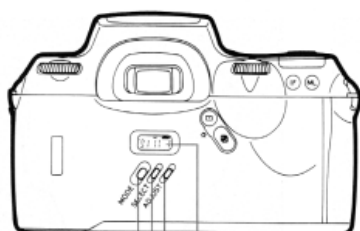
ケース	適合するF、FAレンズ
S	50mm/F1.4、F1.7、ズーム35～70mmなど
M	ズーム28～80mm、ズーム35～105mmなど
L	マクロ100mm、ズーム28～105mm、ズーム70～200mmなど

応用的な使い方

3) クォーツデートのデータ修正

データの修正方法

1. ②のSELECTボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅する位置が変わりますので、修正したい数字を点滅させます。
点滅の順番：年月日の表示のとき 年→月→日→
時分表示のとき 時→分→：→
 2. ③のADJUSTボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点滅させた数字を変更します。
- * ADJUSTボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2～3秒後からは早送りされます。
- * データの修正を行うときは、コインなどを利用してください。

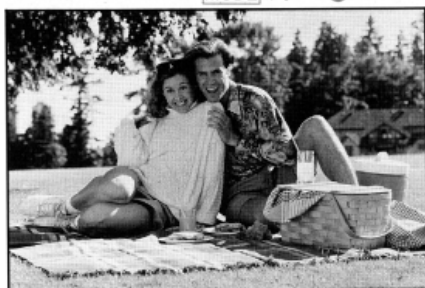


データ表示窓

ADJUSTボタン③

SELECTボタン②

MODEボタン①



※この写真の数字はハメ込み合成です。

応用的な使い方

101

「年月日」の修正

1. ②の**SELECT** ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
2. ③の**ADJUST** ボタンを押して、データを合わせます。
3. 修正後は、②の**SELECT** ボタンを押して、点滅を止めます。

「日時：分」の修正

1. ②の**SELECT** ボタンを押し、時・分・「：」表示のうち修正したい数字（秒の場合は「：」）を点滅させます。
2. ③の**ADJUST** ボタンを押して、数字を合わせます。
3. 秒「：」を合わせるには、③の**ADJUST** ボタンを、時報などに合わせて押すと0秒になります。
4. 修正後は、②の**SELECT** ボタンを押して、点滅を止めます。

クォーツデイト使用上の注意

- * 「年月日」と「日時：分」は同時には写し込めません。
- * デイトの使用可能温度は約50℃～0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 使用できるフィルムは、感度がISO25～1600までのものです。感度のセットはカメラにDXフィルムを入れると自動的に合わせられます。
- * 高感度フィルム（ISO 1000以上）を使ったときは、写し込まれる文字がにじむことがあります。
- * ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 修正途中（点滅表示中）は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- * クォーツデイトは、3Vリチウム電池**CR2025**を使用しています。
電池の寿命は約3年です。写真のデータが薄くなってきたり、写らなくなったときは、最寄りのペンタックスサービスセンターで新しい電池と交換してください。（有料）

1) 絞りとシャッター速度の効果

写したい物（被写体）の明るさによって、適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、被写体が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長いので、もし、このとき被写体が動いていれば、当然被写体がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある被写体でも動きを止めて写すことができます。また、被写体が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。

IV 写真の豆知識

絞りの効果

絞りは、レンズを光が通るときに光束（光の太さ）を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のピントのずれが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広がります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のピントがずれるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。

逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントを合わせることができます。

絞り F 4



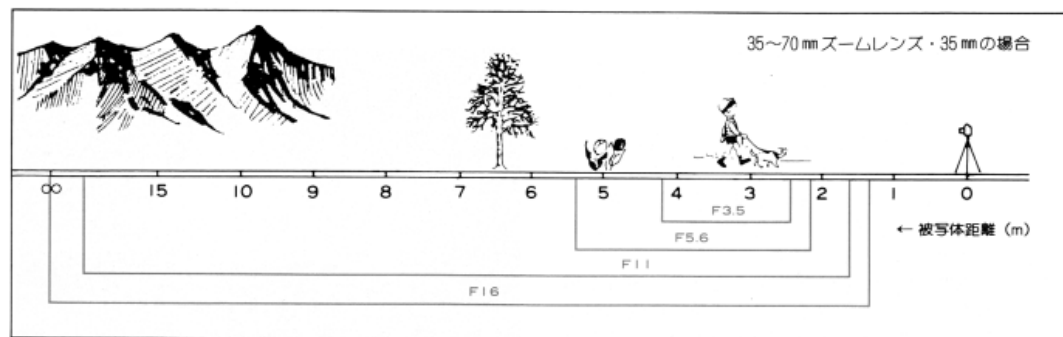
絞り F 22



写真の豆知識

105

2) 被写界深度



被写体のある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。

被写界深度（ピントの合う範囲）は、図のように絞りを絞り込むほど深くなりますが、この他にも広角レンズほど、また、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。

ピントの合う範囲

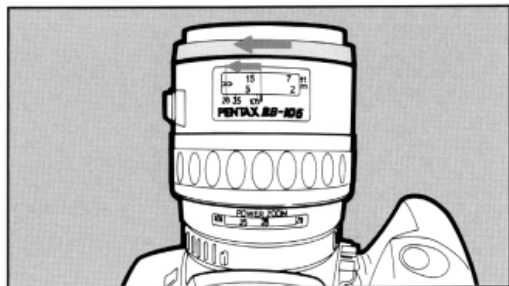
絞りを変えることによってピントの合う範囲（奥行）が変わります。

ズームレンズの被写界深度目盛りは機構上、入っていません。

写真の豆知識

106

3) 赤外線指標について



赤外線フィルムと「R2」や「O2」フィルターを使用して赤外線写真を撮影するときは、一般撮影（可視光線）とピント位置が異なってくるため、ピントの補正が必要になります。オートフォーカスでは赤外線写真のピント補正ができません。一度普通にピント合わせをしてから、フォーカスモードレバーを**MANUAL**にし、距離リングを赤外線指標の分だけ左に回して補正します。

図のように、焦点距離目盛りが28のときは、距離目盛りを28の赤外線指標（赤線）までずらします。

* 赤外線写真を撮影するときの露出は、フィルムの説明書を参考にしてください。自動露出では適正露出が得られませんから、マニュアル露出で撮影します。

写真の豆知識

V その他について

1) 電池について



- *カメラ用の電池はリチウムの[2CR5]、データバック用にはリチウムのコイン型電池[CR2025]を使用します。
- *電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液もれ・発熱・破損の原因となります。電池の＋を間違えないようご注意ください。
- *電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。治療方法についてのお問い合わせ先。
筑波中毒110番：0298(52)9999 24時間体制
大阪中毒110番：06(451)9999 24時間体制
- *電池をショートさせたり、分解や充電をしたり、火の中に入れると破裂・発火の恐れがありますので絶対にしないでください。
- *海外旅行や寒冷地での撮影や写真をたくさん撮る予定のあるときなどは、予備電池を用意しておくとう安心です。

- *低温では、一時的に電池の性能が低下して容量（能力）不足になることがあります。常温に戻れば使用できます。
- *カメラバックなどに入れるとき、シャッターボタンが押されると電池が消耗します。電源スイッチを切っておくと安全です。
- *内蔵ストロボを連続して使うと、カメラ用の電池が多少温くなる場合がありますが、これは電池の特性で異常ではありません。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

一般撮影	約80本
ストロボ撮影（使用率50％）	約25本
ストロボ撮影（使用率100％）	約14本
バルブ露出時間	約6時間

新品のリチウム電池[2CR5]で、当社試験条件による。(24枚撮りフィルム、常温)

その他について

2) 取り扱い上の注意

カメラは精密機械です。取り扱いには充分ご注意ください。

- *落としたり、固いものにぶつけないようにしてください。もしも強いショックや圧力を与えた場合は点検を受けてください。
- *レンズやファインダー窓のホコリはブローで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- *高温多湿の所へ保管したり、長時間放置することは避けてください。特に車の中は高温になることがありますのでご注意ください。
- *カメラの使用温度範囲は50℃～-10℃です。
- *寒い外から急に暖かい部屋へ持ち込むと、カメラの内外に水滴を生じます。このような環境では、カメラをバッグやビニール袋に入れて、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから、取り出してください。



- *カメラは、防虫剤入りのタンスや薬品を扱う実験室などを避け、風通しの良い所に保管してください。
- *汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- *ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入ると、故障の原因になりますからご注意ください。保証期間中でも有料修理になる場合があります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。
- *シャッター幕やミラーには、手を触れないでください。
- *カメラ内部には、高電圧部があります。危険ですから決して分解しないでください。



その他について

- * 一般に、電気系のトラブルは接点部の汚れやゴミが原因になる場合が多いものです。もし、電気系の不具合と思われる現象が出たときは、電池の接点や各部の接点に手油などの汚れ、塩分や特殊ガスなどによる腐食、あるいはゴミなどが付いていないかチェックしてみてください。
- * サービスサイズのカラープリントでは画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を取っておくと安心です。
- * 水没品は修理不可能の場合が多くなります。当社のサービス窓口にご相談ください。
- * 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検をお勧めします。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には、点検や試し撮りをされるようにしてください。
- * マクロレンズや望遠レンズを使用したときは、ファインダーの上部がミラー切れによって暗くなることがありますが、撮影した写真には影響ありません。

LCD（液晶）用バックアップ回路について
撮影途中のフィルムがカメラに入っているとき、電池交換のために電池を抜いても、撮影枚数とフィルム感度はカメラに記憶されています。

LCD（液晶）表示について

- * 約60℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- * 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。

3) こんなときは?

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください

症状	原因	処置	参照ページ
シャッターが切れない	電源スイッチが入っていない	電源スイッチを入れてください	15ページ
	バッテリー警告  が点いている	電池を交換してください	10ページ
	電池が逆に入っている	電池を正しく入れてください	10ページ
	セルフタイマーになっている	セルフタイマーを解除してください	68ページ
	モードダイヤルが  になっている	モードダイヤルを他の位置に回してください	23ページ
表示パネルに表示が出ない	電源スイッチが入っていない	電源スイッチを入れてください	15ページ
	電池が入っていない	電池を入れてください	10ページ
	電池が逆に入っている	電池を正しく入れてください	10ページ
	電池が完全に消耗している	電池を交換してください	10ページ
ピントが合わない	ピントを合わせたい物(被写体)にAFフレーム  が合っていない	被写体をAFフレーム  に入れて撮影してください	30ページ
	被写体に近づきすぎている	被写体から離れてください	31ページ
	フォーカスモードレバーが MANUAL になっている	フォーカスモードレバーを SINGLE か SERVO にしてください	30ページ
	オートフォーカスの苦手な被写体	フォーカスロックを使うか、マウント部のピント合わせを	32ページ 39ページ
ファインダー内の  が点滅する	撮影する距離が近すぎたり、オートフォーカスの苦手な被写体などのためピント合わせができない	フォーカスロックを使うか、マウント部分のピント合わせをご利用ください	32ページ 39ページ
内蔵ストロボが充電しない	電池が消耗している	電池を交換してください	10ページ
	フォーカスモードレバーが SERVO でシャッターボタンを押している	シャッターボタンから指を離してください	80ページ
マニュアル露出なのにシャッター速度が設定できない	マニュアル露出はバルブ専用です	ハイパーマニュアル露出にしてください	53ページ
フォーカスロックができない	フォーカスモードレバーが SERVO になっている	フォーカスモードレバーを SINGLE にする	32ページ
オートブラケットングにならない	露出モードがマニュアルかハイパーマニュアルになっている	露出モードをハイパープログラム、プログラム、絞り優先、シャッター優先のどれかにする	42ページ

症状	原因	処置	参照ページ
多重露出モードにならない。	電源スイッチが になっている。	電源スイッチを にする。	15ページ
インターバルモードにならない。	電源スイッチが になっている。	電源スイッチを にする。	15ページ
ドリブルセルフタイマーにならない。	電源スイッチが になっている。	電源スイッチを にする。	15ページ
2秒セルフタイマーにならない。	電源スイッチが になっている。	電源スイッチを にする。	15ページ
ハイパープログラム自動露出にならない。	電源スイッチが になっている。	電源スイッチを にする。	15ページ
シャッター優先自動露出にならない。	電源スイッチが になっている。	電源スイッチを にする。	15ページ
マニュアル露出[バルブ]にならない。	電源スイッチが になっている。	電源スイッチを にする。	15ページ
	ドライブモードが1コマ・連続・多重露出以外になっている。	ドライブモードを1コマ・連続または多重露出にしてください。	59ページ
露出補正がセットできない。	電源スイッチが になっている。	電源スイッチを にする。	15ページ
ズームクリップモードにセットできない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前面に出して[POWER ZOOM]にする。	71ページ
	レンズのオートズームスイッチが になっている。	レンズのオートズームスイッチを にする。	71ページ
イメージサイズ指定モードにセットできない	カメラ側のフォーカスモードレバーが になっている。	カメラ側のフォーカスモードレバーを が にする。	74ページ
	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前面に出して[POWER ZOOM]にする。	71ページ
	レンズのオートズームスイッチが になっている。	レンズのオートズームスイッチを にする。	71ページ
パワーズームが動かない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前面に出して[POWER ZOOM]にする。	27ページ
撮影のときズームが勝手に作動する。	イメージサイズ指定モードになっている。	イメージサイズ指定モードを解除する。	74ページ
露光間ズームにセットできない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前面に出して[POWER ZOOM]にする。	71ページ
露光間ズームが作動しない。	焦点距離が最も長い側[数字の大きい方]になっている。	焦点距離を短い側[数字の小さい方]にする。	78ページ

4) 主な仕様

型式	TTLストロボ内蔵 TTL AE・AF35mm一眼レフカメラ
画面サイズ	24×36mm
使用フィルム	35mmフィルム(J 135バネ入り)35mmDXフィルム=ISO25~5000 DXでないフィルムはISO6~6400
露出モード	ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出、ハイパーマニュアル露出、マニュアル露出(バルブ)
シャッター	電子制御式縦走りフォーカスブレーンシャッター オートシャッター=1/8000秒~30秒(無段階)、マニュアルシャッター=1/8000秒~30秒、バルブ、電磁リリース、電源スイッチ切りでシャッターロック
レンズマウント	ペンタックススバヨネットK _{AF} マウント(AFカブラー、レンズ情報接点、パワーズーム用電源ピン付きKマウント)
使用レンズ	K _{AF} 、K _{AF} マウントレンズ K _A 、Kマウントレンズ(AFアダプター使用でAF可能)
オートフォーカス機構	TTL位相差検出式、オートフォーカス作動距離範囲E V-1~18(ISO100)(F1.4レンズ付き)、フォーカスロック可能、フォーカスモード= 、 (動体予測)、、AFスポットビーム有
パワーズーム	F Aズームレンズとの組み合わせにより、3連パワーズーム・イメージサイズ指定・ズームクリップ・露光間ズームが使用可能
ファインダー	ペンタプリズムファインダー、交換式アスフェリックマクロマウントフォーカシングスクリーン、視野率92%、倍率0.8倍(50mm・∞)、視度調節式 -2.5~+1.5D
ファインダー内表示	フォーカス表示(F I =フォーカスインジケーション) 合焦表示(緑ランプ表示) 前ピン・後ピンおよび合焦不能表示(緑ランプ点滅)、シャッター速度表示、絞り表示、 点灯=外付けストロボ充電完了表示、 点灯=内蔵ストロボ充電完了表示 点減=ストロボお勤めまたは不適切レンズ警告表示、 =ハイパーマニュアル時の適正露出表示、 =露出補正表示、 =メモリーロック表示、 =スポット測光、中央重点測光表示
L C Dパネル表示	=ハイパープログラム自動露出表示、 =プログラム自動露出表示、 =シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出表示、 =ハイパーマニュアル露出表示、 =マニュアル露出(バルブ)表示、 =イメージサイズ指定表示、 =ズームクリップ表示、 =露光間ズーム表示、シャッター速度=8000~30 s・ 表示、絞りF値=1.2~90、ISO=6~6400、バルブタイマー=1~59 S 1m~59m 1h~24h、露出補正時のインジケータ表示、露出補正=-4~+4、 =パトリローネ・フィルム走行・巻き取りマーク、 =電池消耗表示、フィルムカウンター=0~99、 点滅=ストロボ充電完了表示、 点滅=ストロボお勤め表示、ストロボ充電完了 不適切レンズ警告表示、 =スポット測光・中央重点測光表示、 T =インターバル時のスタート表示 =インターバル表示、インターバルスタート時間およびインターバル時間=1S~9S 10S・20S~50S 1m~9m 10m・20m~50m 1h~24h インターバル枚数=1~36 =ペンタックスファンクション表示、 =合焦時・セルフタイマー時のブザー表示、 =セルフタイマー表示、 2S =2秒セルフタイマー表示、 =トリプルセルフタイマー表示、 =オートブラケットング表示、 =T Vダイレクトダイヤル表示、 =A Vダイレクトダイヤル表示、 T v =T v表示、 A v =A v表示、LCD照明あり(約5秒間照明)、 =多重露出表示

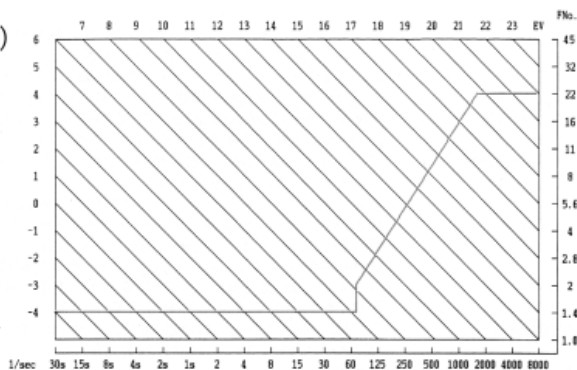
セルフタイマー	電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間12秒(赤ランプ点滅、音、減算表示)、作動後解除可能、2秒セルフタイマー可能、トリプルセルフタイマー可能
ミラー	クイックリターンミラー、オートフォーカス用第2ミラー付
フィルム入れ	オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ、裏ぶたにフィルム情報窓付
巻き上げ・巻き戻し	内蔵モーターによる自動巻き上げ・巻き戻し式、1コマ撮影・連続撮影(約3コマ/秒)、フィルム終了時自動巻き戻し、フィルム走行・巻き戻し完了をLCD表示
露出計・測光範囲	TTL開放8分割測光、測光範囲 50mm F1.4 ISO100 EV 0~20、スポット測光可
露出補正	±4 EV (0.3 EVごと設定可能)
オートブラケット	適正・アンダー・オーバーの3コマ連続段階露出が可能(±0.3 EV~±4 EVの範囲) 露出補正併用可
メモリーロック	ボタン式(タイマー式5秒) シャッターボタン半押しで継続
ストロボ	並列制御 TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー14 (ISO100/m) 35mmレンズをカバー、同調速度 1/250秒~1/15秒へ自動切り替え、日中シンクロ 低速シンクロ 光量比制御可能、ISO 連動範囲=25~400
シンクロ	ホットシュー(X接点専用ストロボ接点付き) 専用ストロボ連動、ISO 連動範囲=25~800
電源	6 Vリチウムバック電池 2CR5 1個
電池消耗警告	バッテリーマーク  点灯(点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯)
PF	ペンタックスファンクション18項目設定可能
裏ぶた	交換可能
大きさ・質量(重さ)	152.0mm(幅)×95.5mm(高)×74.0mm(厚) 650g(ボディのみ 電池別)
付属品	ホットシューカバーF _D 、レリーズソケットキャップF _D 、カメラストラップF _C 、アイカップF _D 、ファインダーキャップ

クォーツデイト仕様

デイト機構	クォーツ制御、液晶表示式、デジタル時計、オートカレンダー(西暦2019年まで、閏年は自動修正)
データの写し込み方法	7セグメント6桁LCD、フィルム背面より写し込み
データ表示	データ表示窓にLCD表示、表示写し込み時  が2~3秒間点滅
データの種類	①年・月・日、②日・時・分、③  (データ写し込み無し)、④月・日・年、⑤日・月・年 年=87~19(1987~2019年)、月=1~12、日=1~31、時=0~23、分=00~59
使用フィルム感度	ISO25~1600(感度自動セット)
デイト電源	CR2025(リチウム電池)
発光回数	約5000回

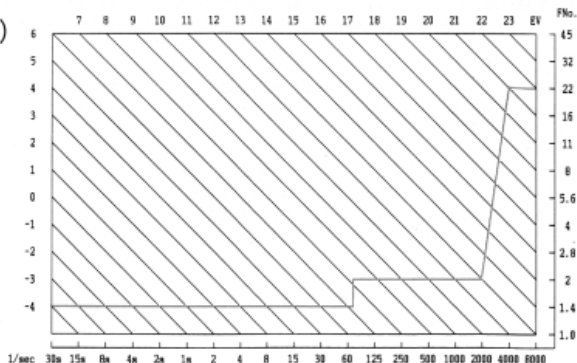
プログラム線図(ノーマルプログラム)

ISO100 50mmF1.4の場合



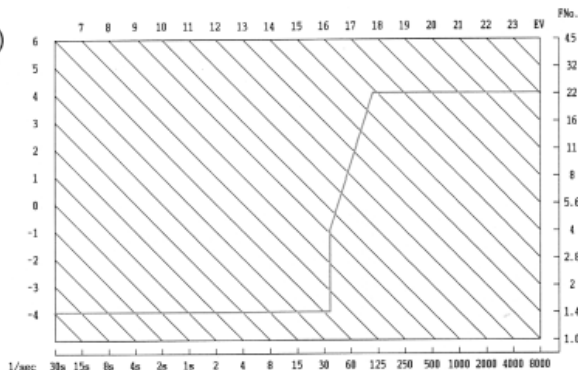
プログラム線図(高速優先プログラム)

ISO100 50mmF1.4の場合



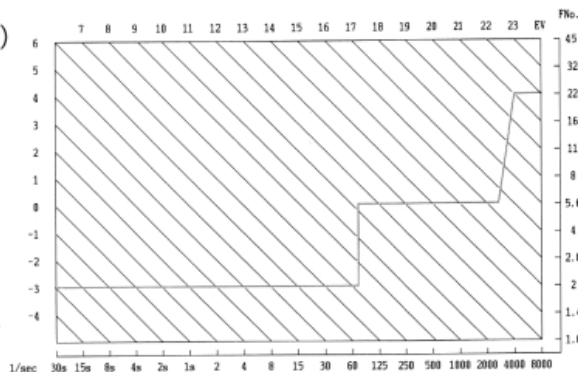
プログラム線図(深度優先プログラム)

ISO100 50mmF1.4の場合



プログラム線図(MTF優先プログラム)

ISO100 50mmF1.4の場合



お問い合わせは次の各サービス窓口へ

■営業時間：●ペンタックスフォーラム(新宿)

午前10時30分～午後6時30分
(原則として年末年始を除き年中無休)

●ペンタックスフォーラム・大阪

午前10時～午後6時(日・祝日休業)

●各サービスセンター

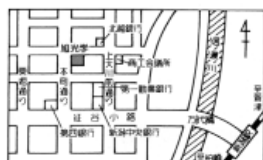
ペンタックスファミリー

午前9時～午後5時(土・日・祝日休業)



仙台サービスセンター

☎02(261)568111
〒980
仙台市青葉区中央2丁目2番10号
仙都会館4階



新潟サービスセンター

☎025(224)839111
〒951
新潟市本町通七番町1153番地
新潟本町通ビル



横浜サービスセンター

☎045(681)877111
〒231
横浜市中区不老町1丁目6番9号
横浜エクセレントVビル3階



静岡サービスセンター

☎054(255)630811
〒420
静岡市伝馬町24番2号
住友建設ビル5階



ペンタックスフォーラム

(シヨールーム・写真展・修理受付)
☎03(3348)294111
〒163-04
東京都新宿区西新宿2丁目1番1号
新宿三井ビル1階(私書箱240号)



東京サービスセンター

☎03(3571)562111
〒104
東京都中央区銀座西8丁目10番地
(土橋交差点交番並び)



札幌サービスセンター

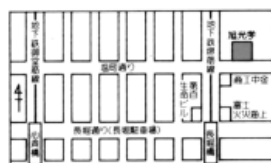
☎011(812)323111
〒060
札幌市中央区
北10条西18丁目36番地
ペンタックス札幌ビル



名古屋サービスセンター
 ☎052(962)5331℥
 〒461
 名古屋市中区栄1丁目19番8号



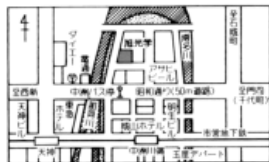
金沢サービスセンター
 ☎0762(22)0501℥
 〒920
 金沢市尾張町2丁目8番23号
 太田生命ビル6階



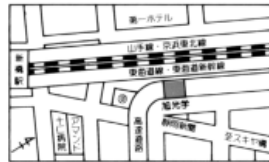
大阪サービスセンター
 ☎06(271)7996℥ (修理受付)
 〒542
 大阪市中央区南船場1丁目17番9号
 ペンタックスフォーラム・大阪
 (ショールーム・写真展)
 ☎06(271)3960



広島サービスセンター
 ☎082(248)4321℥
 〒730
 広島市中区大手町3丁目7番2号
 大東京火災広島ビル8階



福岡サービスセンター
 ☎092(281)6868℥
 〒810
 福岡市博多区中洲中島町3番8号



お客様相談室
 ☎03(3572)6479
 〒104
 東京都中央区銀座西8丁目10番地
 (土橋交差点交番並り)

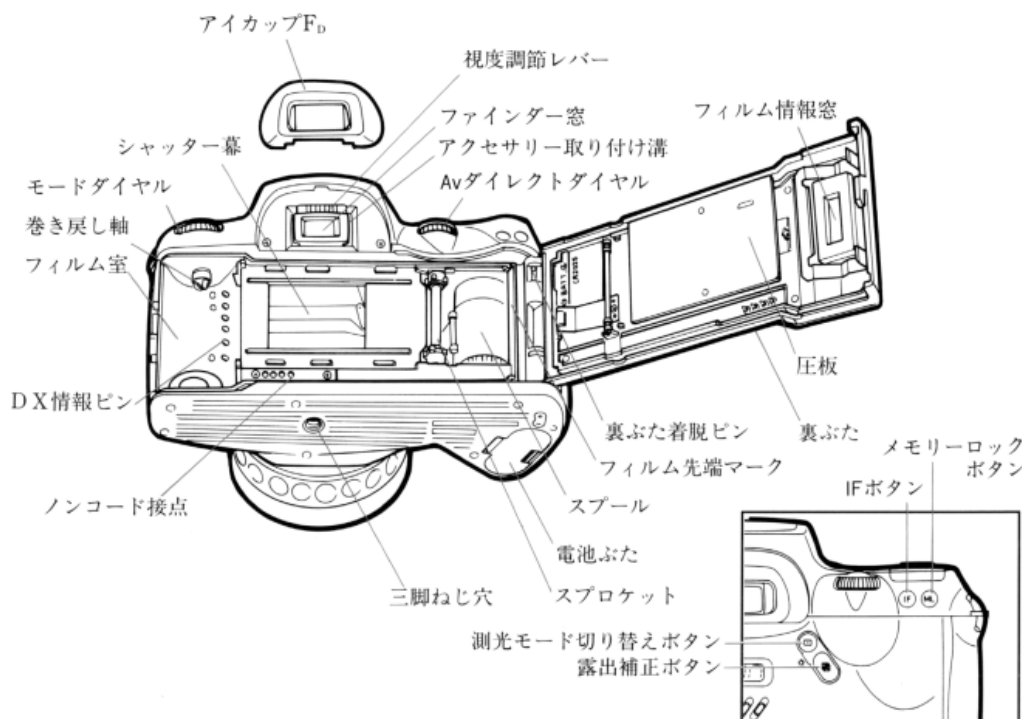


ペンタックスファミリー(写真クラブ)
 ☎03(3401)2187
 〒106
 東京都港区西麻布3丁目24番20号
 交通安全教育センター3階

ペンタックスファミリーのご案内
 ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。
 お申し込み・お問い合わせは上記ペンタックスファミリー事務局まで。

119

各部の名称②



120

アフターサービスについて

●旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリが展示され、手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

●他社製品(レンズ、アクセサリ等)との組み合わせ使用に起因する故障については有料となります。

1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口へ直接お持ちください。郵送の場合は、カメラの化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかり包装し、書留小包便でお送りください。なお、不良見本のフィルムやプリント、また、故障内容は正確にメモして添付していただくと原因分析に役立ちます。

2. 保証期間中(ご購入後1年間)は保証書(販売店印、および購入年月日が記入されているもの)をご提示ください。保証書がないと、保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用は、お客様にご負担願います。

3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。なお運賃諸掛りはお客様にご負担願います。

4. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後、10年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間以後であっても、修理可能な場合もありますから、当社の各サービス窓口にお問い合わせください。

5. 外国旅行をされる場合、各サービス窓口ではお手持ちの保証書と交換に、国際保証書を発行いたします。(保証期間中のみ有効)なお、特定の旅行先でのサービス窓口の住所については、お問い合わせください。

(12)



旭光学工業株式会社

〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号

ペンタックス販売株式会社

〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号